

2019（令和元）年度
事業報告書 及び 附属明細書

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

目次

01 法人	1
02 垂穂寮	11
03 やまばと希望寮	13
04 わかば(もくれん含む)	15
05 みぎわ	17
06 ケアセンターさざんか	19
07 ケアセンター野ばら	21
08 ケアセンターかたくりの花	23
09 ワークセンターカサブランカ	25
10 ワークセンターコスモス	27
11 ワークセンターなのはな	29
12 ワークセンターあさがお	31
13 ワークセンター希望の家(ふれあい含む)	33
14 ワークセンターやまばと	35
15 ワークセンターさくら	37
16 ケアセンターマーガレット	39
17 レタスクラブ	41
18 生活支援センターやまばと	43
19 聖ルカホーム(ショートステイ含む)	45
20 グレイス(ショートステイ含む)	47
21 相寿園	49
22 ぎんもくせい	51
23 デイサービスセンター真菜	53
24 デイサービスセンターすずらん	55
25 ライフサポートさふらん	57
26 居宅介護支援事業所シャローム	59
27 牧之原市地域包括支援センターオリーブ	61
28 コミュニティセンターぶどうの木	63
29 介護職員初任者研修	65
30 付属明細書	66

2019（令和元）年度 法人全体 事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

<総括>

明るいニュースとしては、①ワークセンターあさがお建設に対し国庫補助金交付が決定され、年度末に工事完了に至ったこと、②インドネシアから2名のEPA生受入れが決定されたこと、③実習生の中に「そちらの施設での就職を考えたい」と申し出る人もいたこと、などが挙げられる。

特に大きな出来事もなく無事に年度末を迎えるはずだったが、前年11月末中国武漢で発生した新型コロナウイルスは、予想外の甚大な影響をもたらすことになった。感染は、世界中に広がり、2020年1月中旬には、日本にも初の感染者が発生。静岡県内で初の感染者が出た2月28日以降は、当法人でも、各施設への訪問者立入禁止にし、ほぼ全ての会合や行事を中断。年度末まで、検温、手洗い、マスク着用、消毒、三密を避ける日々となったが、今後も、細心の注意をして施設内における感染発生を防がねばならない。

I. 基本理念と行動指針、目標

法人の理念は、「ともに生きる」というモットーや、「私たちの願い」に込められている。わたしたちが持つ価値観や志の込められたこの理念を、日々の仕事内容や行動に結びつけたものが「サービス提供指針」であり、その中で特に強調されていることは、「人権の尊重」と、相手の「成長」や「喜び、自信、安心」のために支援することだと言える。

1年を振り返ると、反省すべきことが多々あるが、それだからこそ、絶えず理念に立ち返り、より良い働きができるようお互いに協力し合い、前進していかなければならない。

II. 2019年度牧ノ原やまばと学園の事業概要

1. 評議員、理事、監事の氏名と任期

(アイウエオ順、敬称略)

評議員（9名。任期は2017年4月～2021年6月の定時評議員会）：

大石節夫、小澤巖、柴田敏、杉本正、外岡潤、長谷川清太、早川ひろみ、久田則夫、渡辺紀久子

理事（7名。任期は、2019年6月17日～2021年6月定時評議員会）：

姉崎弘、伊藤巧、大石幸、金子初子、神谷美代枝、佐々木炎、長澤道子（下線は理事長。）

監事（2名。任期は、理事と同じ）：鈴木武、松浦隆雄（松浦氏は、今期から新しく就任された。）

2. 評議員会や理事会等の開催数

評議員会：2回（1回は決議の省略）、理事会：6回（1回は決議の省略）、監事監査：2回（決算監査と定期監査）。開催日時と審議内容等は、添付資料「事業報告II-2」に記載した。

3. 2019年度に実施した事業、種別、責任者名、職員数等について

事業計画に示した通りの事業を実施した。各施設の責任者名、定員等は次のページに記載。

4. 2019年度に実施した研修：添付資料「事業報告II-4」に記載したので、参照のこと。

2019年度牧ノ原やまばと学園の事業、責任者名、職員数など (2020年3月31日)

事業所名	責任者名	内容や種別	定員	在籍	職員
本部事務局	板倉 仁	事務・財務の統括			5
やまばと希望寮	高杉 和成	障害者支援施設	30	29	30
垂穂寮	大畑 彰弘	〃	50	47	44
ケアセンター野ばら	大畑 彰弘	生活介護	20	20	12
ケアセンターさざんか	桑原 裕子	〃	20	21	12
ケアセンターかたくりの花	渡邊 千恵子	〃	20	21	14
ケアセンターマーガレット	増田 今日子	〃	20	20	14
レタスクラブ	鬼頭 淳	地域活動支援事業		不特定	3
ワークセンターカサブランカ	河本 敦子	就労継続支援A型	15	13	5+13
ワークセンターやまばと	川嶋 栄	就労継続支援B型	20	21	8
ワークセンターコスモス	高松 祐輔	〃	20	22	10
ワークセンターなのはな	河本 敦子	〃	30	30	10
ワークセンターあさがお	榛地 裕子	〃	20	20	11
ワークセンターさくら	鬼頭 淳	〃	22	25	8
ワークセンター希望の家	吉崎 伸男	〃(主たる事業所)	20	16	8
ワークセンターふれあい	吉崎 伸男	〃(従たる事業所)	20	15	6
みぎわ	大畑 彰弘	共同生活援助	15	15	12
わかば	高杉 和成	〃	10	9	11
もくれん	高杉 和成	〃	10	10	15
生活支援センターやまばと	田村 貴子	相談支援事業			9
聖ルカホーム	大石 幸	特別養護老人ホーム	70	69	75
グレイス	山脇 世津子	地域密着型特養ホーム	29	29	30
相寿園	松田 正幸	養護老人ホーム	50	32	18
ぎんもくせい	片山 喜之	〃	50	46	24
デイサービスセンター真菜	吉田 陽子	通所介護	35	日替り	23
すずらん	山脇 世津子	認知症対応通所介護	12	日替り	9
地域包括支援センターオリーブ	鈴木 ひろみ	調査、相談、権利擁護等			8
コミュニティセンターぶどうの木	神谷 美代枝	介護予防拠点施設		日替り	4
ライフサポート さふらん	大石 幸	訪問介護事業			13
居宅介護支援事業所シャローム	山脇 世津子	ケアプラン作成所			2
やまばと診療所	赤堀 由砂	保険医療診療機関			2
合 計 ⇨				532	468

★カサブランカご利用者(15名)は、本部と雇用契約を結んでおり、職員として計上されている。

5. 2019年度末の職員状況 : 総人数は468名

(2020年3月31日時点)

	正規職員	準職	嘱託	パート	パ・利用者	非正規・計	職員総数
男性 (人数)	70	5	5	43	11	64	134人
女性 (人数)	121	12	5	194	2	213	334人
平均年齢	47.0	45.2	65.5	58.1	48.9	54.4	53.0歳
平均勤続数	11.20	7.68	10.25	8.8	4.26	7.74	8.53年

(注) パ・利用者とは、就労継続A型事業所のメンバー。法人の職員であり、ご利用者でもある。

6. 決算結果と収支状況

(1) 財務三表 : 個別には改善が必要な事業所もあったが、全体としては良好な結果だった。

資金収支計算書		() は前年比、 [] は公益事業
事業活動資金収支差額	249,591,676 (-45,377,643)	[-378,485]
施設整備等資金収支差額	-107,162,506 ※(1)	
当期資金収支差額合計	76,251,994	[1,121,515]
当期末支払資金残高	1,000,048,969	[1,121,515]
★当期末支払資金残高>運営費3ヶ月分(465,297,340円。 ※(2))		

※(1) 「あさがお」建設に伴う補助金収入等との収支差額。建設費は、外構工事や備品等も含め、1億386万円。
 ※(2) 運営費とは、人件費・事務費、事業費・合計の、3ヶ月分。事業が停止しても、残った資金で運営費をまかなえるかどうか重要。

事業活動計算書		() は前年比
サービス活動収益	2,171,260,856 (+30,990,678)	
サービス活動増減差額	135,369,235 (+39,358,692)	
経常増減差額	133,568,829 (-37,536,657)	
当期活動増減差額	133,671,934 (-33,237,791)	
次期繰越活動増減差額	1,629,103,919(+76,527,934)	

貸借対照表	
流動資産 1,138,624,090	流動負債 236,354,020
現金預金 786,762,198	内、1年返済の借入2,106万円
固定資産 3,447,882,140	固定負債 615,958,031
	内、長期借入金5億1,831万円
資産合計 4,586,506,230	純資産 3,734,194,179
	内その他の積金868,674,000

(2) 法人の経営指標

経営指標	2017年度決算	2018年度決算	2019年度決算	指標の意味
純資産比率	79.23%	80.33%	81.42%	長期持続性
人件費比率	70.24%	68.59%	66.84%	収入と出費の合理性
事業費比率	14.03%	13.70%	13.69%	利用者サービス割合
事務費比率	9.17%	9.08%	9.00%	管理費的費用の割合
事業利益率	2.27%	4.49%	6.23%	総合的な収益力
経常増減差額率	2.24%	7.99%	6.15%	効率性、収益性
流動比率	390.58%	421.01%	481.75%	安定性・持続性
減価償却費率	5.49%	5.31%	5.28%	設備投資の割合

7. 2019年度 寄付金状況

下記のようなご寄付を頂いたことを、心から感謝して報告致します。

項目	法人本部への寄付金	各事業所への寄付金	寄付金合計額
金額	12,645,246 円	2,417,185 円	15,062,431 円

- ▶ 機関紙代金は、寄付金に含まれていません。
- ▶ この他、固定資産として、土地 2,452,000 円、中古軽自動車(1 円価格)を頂きました。

III. 重点目標と、達成状況

当年度も、下記の6つの重点目標を掲げ、管理者会や、管理者面談などを通して、目標の実現を促してきたが、1年間を振り返るにあたって、幾つかの評価項目をつくり、6つの重点目標それぞれについて、各施設長たちに、1(かなりよくない)、2(ややよくない)、3(ややよい)、4(かなりよい)の評価をしてもらった。評価基準を厳格に示したわけではないので、厳しい評価もあれば甘い評価もあったかもしれないが、大体の傾向は把握できた。それらをまとめると下記のようになり、下線の部分が今後の課題と言える。(各事業所の評価一覧表は、次ページに紹介。)

◆1. 良い人間関係の形成

評価項目：①仕事目標を明示 / ②上司と部下の意思疎通 / ③職員同士のチームワーク / ④仕事と私生活のバランス / ⑤仕事量と職員

全体の評価傾向：ややよい>ややよくない>かなりよい>かなりよくない

内容：●④と⑤の項目は、事業所によって大きな違いがあった。(かなりよくない)と評価した事業所については、その原因を探り、改善していく必要がある。良いコミュニケーションのために施設長たちが工夫していたこととして、こんなことがあった。①職員へありがとうの言葉かけをする。②なくてはならない存在という思いを伝える。③ほめる、感謝するの姿勢で接する。④職員会など諸々の会で、率直に意見が出せる雰囲気づくりを心がける。⑤雑談も大切なコミュニケーションととらえ職員と雑談する。●人手不足の中だが、仕事と私生活のバランスはとれていると回答する事業所が意外に多く、事業所によって仕事量が違うと推察される。また、よく働く職員が、多くの仕事を引きうけざるを得ない状況になり、仕事が偏りがちという報告もあった。

◆2. 理念の浸透、並びに、サービス提供指針に基づくケアの実践

評価項目：①理念の浸透 / ②ご利用者中心のケア / ③特記したい日課や実践

全体の評価傾向：ややよい>ややよくない>かなりよくない (「かなり良い」は無し)

内容：● サービス提供指針を「職員会で輪読」の事業所は多く、唱和している所もあった。

- 聖書の話を職員が聴く事業所と、皆無の事業所があり、開催回数も異なっている。
- 法人が人材を提供できない事業所(例えば、包括支援センターは、有資格者が必要だが、法人からは適切な職員を出せない)があり、中途就職者も増加しているおりから、法人の理念の継承や、法人への帰属意識に関連した課題が生じている。

◆3. 良質な福祉人材の確保と育成

評価項目：①人材確保面 / ②育成面

内容：●①に関しては、計 18 の事業所が、「あまりよくない」、「非常によくない」と回答し、「よい」、「非常に良い」と答えた事業所 11 を上回る結果になった。②に関しては、「ややよくない」と「ややよい」が同数だった。少数ながら、「かなりよい」と「かなりよくない」もあった。「かなりよくない」と答えた事業所については、改善を図る必要がある。入所施設は配置基準は満たしているものの正規職員が減っており、職員確保のため今後も努力する必要がある。

- チームワークが悪かった事業所で、スタッフが替わり、穏やかで思いやりのある新人が着任すると、職場の人間関係が一変したという報告もあった。育成も大切だが、福祉の適性を備えた人材を確保することが極めて重要なことに気づかされる。
- 中堅以上の職員を対象にした研修が必要との意見があり、優先的に具体化したい。
- 「深い人間理解に基づくケアの実践をしたい」との意見があり、具体化したい。

◆4. 経営感覚の養成

評価項目：事務長や主任、一般職員など、職位によって、求められることが違う。

内容：●公認会計士事務所による月 1 回の指導は、事務員にとって学びの時になった。

- 高齢者部門の事務長や主任への信頼が厚いことが明らかになった。諸々の事情で、障害者部門と高齢者部門の事務体系が違うが、今後の検討課題だと言える。
- 一般職員やパート職員は、高度の経理的知識を学ぶ必要はないとの考えが多い一方、「施設長、副施設長、主任は、経理の学びをする必要がある」との意見が多かった。
- 施設長たちからは、今後も経理の学びを続けたいとの要望があり応えていきたい。

◆5. 秩序ある組織の構築と、ムリ・ムダ・ムラのない職場づくり

評価項目：①役割の理解と遂行 / ②施設内の報告・連絡・相談 / ③部長制度に関して
全体の評価傾向：「やや良い」との評価が、一番多かった。

内容：●部長制度に関しては、一様に、「相談しやすくなった。部門間で考えを共有しやすくなり、足並みそろえて対応できてよい」とのプラスの感想だった。その反面、部長 1 人の負担が多すぎるのでは？施設長の仕事と切り離れたほうが良いのでは？という心配の声もあった。しかし、施設長だからこそ現場に即した助言ができる面もあるので、まずは、例えば、アンケート集約といった作業を任せないよう、改善を図りたい。また、部長の適切な数についても再考を求める意見があったので、検討したい。

- 部会での意見が経営会議に伝わっているだろうかという質問もあったので、双方向の意思疎通をよくしていく必要がある。

◆6. 法令遵守、並びに、虐待防止・リスク管理・安全管理の徹底

評価項目：①新しい法律の学び / ②虐待防止の理解と実践 / ③身体拘束の理解と実践
全体の評価傾向：ややよい>ややよくない> 「かなり良い」と「かなりよくない」は少数で同数。

内容：●虐待防止や身体拘束の正しい理解のため、「チェックシート活用」の事業所もあった。「身体拘束廃止委員会」開設の事業所もあったので、法人内で学び合いたい。

2019年度・法人6つの重点計画に関して、各事業所の現状評価

Sは障害者部門、Kは高齢者部門。／ 数字は、評価した施設の合計数を表す。

それぞれの部門で、数が多い箇所は、太字にした。

事業計画 テーマ	評価指標	1 (最もよくない)、 2 (よくない)、 3 (ややよい)、 4 (最もよい)							
		1		2		3		4	
		S	K	S	K	S	K	S	K
良い 人間関係の 形成	①仕事目標を明示	0	0	8	2	7	7	4	1
	②上司と部下の意思疎通	0	0	5	3	14	7	0	0
	③職員同士チームワーク	0	0	2	1	14	8	3	1
	④仕事と私生活のバランス	2	0	0	2	15	3	2	1
	⑤仕事量と職員数	1	0	9	9	7	1	2	
理念の浸透、 指針に基づい たケアの実践	①理念の浸透	4	0	6	3	7	7	0	0
	②ご利用者中心のケア	0		2	2	15	8	0	0
	③特記したい日課や実践→								
人材の確保と 育成	①人材確保面	0	1	10	7	7	2	2	0
	②育成面	1	0	5	8	11	2	0	0
経営感覚の 養成	職員：施設の収支の理解	9	3	8	2	2	5	0	0
	主任：前記+改善案提示	2	3	12	2	3	4	0	
	経理担当：正確な仕事 財務諸表の理解	0	0	5	0	14	7		3
	ベテラン経理：改善案提示、 主任以上の職員を指導できる	0	0	6	0	6	1	0	5
	施設長や事務長：収支状況理解、 経営分析、改善案提示	2	0	8	1	8	7	0	4(2は 事務長)
秩序ある 組織の 構築	①役職の理解と遂行	0	0	3	6	16	4	0	0
	②施設内の報告・相談・連絡	0	0	1	2	16	7	2	1
	③部長制度 →								
法令遵守	①新しい法律の学び	0	0	7	5	9	3	0	0
	②虐待防止の理解と実践	1	0	7	2	11	7	0	1
	③身体拘束の理解と実践	1	0	8	2	10	7	0	1

IV. その他、大きな出来事や活動

1. 職員の労務環境

(1) 働き方改革関連法施行に伴い、2019年4月1日より、下記のことを実施した。

①時間外労働の上限規制、「月45時間、年360時間」の限度を設定。

- ②有給休暇が年10日以上付与の労働者について、そのうち5日の年次有給取得を義務化。
- (2) 一般事業主行動計画（有給休暇の消化／育児休暇／ノー残業デー）の継承。
働き方改革の流れの中で、仕事と家庭の両立を図る雇用環境の整備に努めた。
- (3) 5月13日、本部サーバー機器が故障、データ消失に伴う長期間のトラブル発生。
全事業所のデータ入力不能となり、決算にも支障が出た。完全復旧は9月初めだった。
- (4) 9月2日、特定介護職員処遇改善加算取得の申請をすることにした。支給は次年度5月。
- (5) シニアワーカーの実態把握と適切なルール作り
シニアワーカーも「パート就業規則」に従って働き、特に大きな問題はないと判明した。
一般に研修意欲が低いようなので適切な対応をしたい。最高年齢のパート支援員は82歳。
- (6) 長澤理事長と伊藤理事による管理者面談、11月13日～12月2日

2. 土地に関すること

- (1) 河辺邦夫様・土地追加寄贈。(島田市横井4丁目5976-7、面積115㎡) 1月7日、法人へ所有権移転。
- (2) 土地の売買契約完了。2020年2月24日。住所は、坂口字シヲ田2771番地1、山林、
土地面積(2,989㎡)、価格(29,837,610円)

3. 建設関連

- (1) 「ワークセンターあさがお」(就労継続支援B型事業所・定員20名)の建設完了。
7月2日付で、社会福祉施設等施設整備費補助金交付金の内示があり、9月27日着工、
年度末に建物本体が完成した。補助金44,951千円、総工費1億368万円(外構工事等も含む)。
設計はこころ木造建築研究所(山崎健治氏)、建設は小桜建設工業(櫻井敬久氏)
- (2) 障害者通所施設「さざんか」と、高齢者通所施設「真菜」の建設計画
聖ルカホーム隣地購入に伴い、紆余曲折を経て、「ケアセンターさざんか」建設のため国庫
補助金申請を2020年6月に行うことに。「デイサービスセンター真菜」についても検討中。

4. 防災関連

- (1) 2020年3月18日、初の全体防災訓練。身の丈に合った訓練という趣旨で、それぞれの
事業所の実情に合わせて実施。午後の反省会では、家族への連絡の必要性などを再認識。
- (2) 毎月1回以上の安否コール応答訓練。応答率がかなりよくなってきた。

5. 苦情や事故、虐待等への対応

- (1) 苦情解決委員会：新型コロナ感染予防のため中止。各事業所報告を参照のこと。
本部への苦情としては、機関紙11月号への苦情があり、第三者委員会4回開催し和解。
- (2) 事故報告委員会：新型コロナ感染予防のため、中止。各事業所報告を参照のこと。
- (3) 全体虐待防止委員会：2月と8月に開催し、各施設の取組みを発表し、学び合った。
- (4) 身体拘束：法人としての全体研修は実施しなかった。

6. EPA生としてインドネシア人女性2名の受入れ決定、国際厚生事業団と契約終了。

8月19日～22日、現地説明会に本部スタッフ2名参加しマッチングに成功。しかし、
年度末から新型コロナ感染拡大が発生し、2020年6月来日の日程も大幅に遅れそうである。

7. 介護職員初任者研修4回目開催。

8月31日～12月14日開講。12名が受講し、全員が修了書を取得。

8. 社会福祉法人牧ノ原やまばと学園に対する指導監査実施 10月18日

指摘事項が二つあった。土地売買をめぐる業者の意志変更など当法人の意図に沿わない事情も関連していたが、どんな事情にせよ、「規定に則った速やかな対応」を心がけたい。

9. 聖隷信徒交流会、11月9日

当法人は幹事法人として、「共生社会への歩み」のテーマで内容を企画。聖隷グループ（聖隷学園、聖隷福祉事業団、小羊学園、十字の園）の皆さんと学び合い、交流した。

10. 第4回オリーブ祭り、11月30日

オリーブオイルを初めて販売。オイルの説明や、ラーメン店の出張などもあり盛況だった。

11. 「創立50周年記念式典・祝賀会」開催の準備

会場予約が成立し2020年11月14日開催と決定。役割分担や記念誌編集の準備が進んだ。

V. 地域における公益的取り組み

1. 低所得者への利用者負担軽減制度事業。／2. ひとり暮らし高齢者のための「ワイワイ話そう会」。／3. 地域のサロン参加者（高齢者）のための送迎協力。／4. 心を病む人たちの居場所「レタスクラブ」運営。／5. 地域の人々への出前講座。／6. 重症身障者を月1回無料受入れ(マーガレット)／7. 相談支援、権利擁護等の事業は、高齢者部門も障害者部門も人材提供や財政面で苦勞が多いが、地域生活支援の拠点と考え協力。／8. 「養護老人ホーム」の運営。

VI. 機関紙、並びに、ホームページ

1. 広報活動：フェイスブックの活用は、下火になっているので、原因等を検討する必要あり。
2. 機関紙の編集：編集委員会を中心に、中身を検討した。2か月前に編集計画を立てて実行。
3. ホームページ：中身を刷新するという当初の計画は、思ったように実現できなかった。

VII. 実習生やボランティアの受け入れ

1. 実習生：当年度は、「ここで働きたい」と申し出る人があって、うれしいニュースだった。
2. ボランティアの皆様：地域の方々や、ご家族の方たち、教会関係の方々など、寄付金を寄せて下さる方や、お米やお茶を寄贈して下さる方、草刈りや、演技の披露など、いろいろな方が、多様な形でご支援下さり、感謝である。今後も、感謝の気持ちをもってお迎えし、よい出会いとなるよう心を込めて対応したい。

以上

評議員会

開催年月日	出席者		議事決定事項
	評議員	理事・監事	
2019/6/22	9	理事 1 監事 2	7名の理事候補者の承認について/2名の監事候補者の承認について/2018年度の計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及び財産目録の承認の件/基本財産の土地3件の一般財産への変更について/ワークセンターあさがお建設計画に伴う基本財産の追加について/役員等報酬規程の変更について
2019/10/31	9	理事 1 監事 2	定款の変更について (決議の省略)

理事会

開催年月日	出席者		議事決定事項
	理事	監事	
2019/6/1	6	2	定期監事監査報告に対する回答について/監事監査報告について/2018(平成30)年度事業報告(案)並びに決算(案)/新役員候補の推薦について/管理者に関する承認事項について/役員報酬規程(監事の報酬)の変更について/基本財産の一般財産への変更について/育児・介護休業等に関する規程の変更について/定時評議員会の招集について
2019/6/22	7	2	理事長の選定について/召集権者の選定の件
2019/9/28	6	2	定款の変更について(基本財産の土地3件の一般財産への変更)/第2回評議員会の開催、並びに、決議の省略について/監事監査報告に対する回答について/評議員選任・解任委員へ松浦隆雄監事を選任することについて/ワークセンターあさがおの前期末支払資金残高の取り崩し、並びに、積立金の目的外使用について/第1次補正予算案について/聖ルカホーム隣地の土地購入について/苦情解決規程の制定と第三者委員の任期変更について/最低賃金改定に伴うパートタイマー等の就業規則の変更、並びに、宿直手当の変更について/ワークセンターあさがお建設工事入札結果と契約について
2019/12/23	6	2	定期監事監査報告について/生活支援センターやまばとサービス区分の備品等購入積立金の目的外使用について/第2次補正予算案について/寄附土地の受入れについて/管理者人事について/規程類の変更について/聖ルカホーム・グレイス・すずらん・真菜における給食業務委託について
2020/2/5	6	2	管理者人事について (決議の省略)
2020/3/20	6	2	定期監事監査報告に対する回答について/相寿園拠点区分前期末支払資金残高の取崩しについて/2019年度第3次(最終)補正予算案について/管理者人事について/介護・福祉に従事する介護員等の教育・研修及び養成事業の休止について/2020年度事業計画案、予算案について/理事及び監事の報酬の総額に関する役員等報酬規程の変更について/給与規程の変更について/パートタイマー等の就業規則の変更について/職員住宅規則の変更について/ケアセンターさざんか建設工事について

職員育成、並びに、法改正などへの対応のための研修（対象は法人職員）

日時	研修名	講師	内容	参加者数
4/1	新人オリエンテーション	(理事長) 長澤道子他	礼拝・理念と歴史 等	11
5/18	新年度研修	宮嶋望先生(共働学舎北海道新得農場代表)	「ともに生きる」 講演後、3施設から取組み発表	150
4/29	誕生月研修	(理事長) 長澤道子	理念の学び	40
5/27	管理者研修	久田則夫先生	管理者のリーダーシップ	23
9/30	新人オリエンテーション	(理事長) 長澤道子他	礼拝・理念と歴史 等	10
10/3	新人コミュニケーション研修	(理事) 伊藤 巧	新人職員のコミュニケーション	3
10/11	防災研修	(三愛会) 阿井孝訓様	防災意識の向上、各事業所の連携	23
10/24	障害部門別研修	(職員) 増田今日子	てんかん講座	8
11/9	聖隷信徒交流会	当法人は幹事法人として、企画・実施。	テーマ「共生社会へ歩み」、NPO法人、社会福祉法人3団体、教会、学校法人が発表。	80
11/15	誕生月研修	(理事長) 長澤道子	理念の学び、話合い、ゲーム等	28
6/6	新人職員研修	(理事) 伊藤 巧	社会人としてのマナー	11
6/13	高齢者部門別研修	(職員) 鈴木ひろみ	介護保険法など	5
6/20	障害者基礎研修	(職員) 田村貴子	障害者総合支援法の制度と理解	12
6/21	法律セミナー	(弁護士) 外岡 潤	ハラスメントについて、裁判例等	30
7/12	障害者基礎研修	(職員) 高松祐輔	障害者の特性について	12
7/19	誕生月研修	(理事長) 長澤道子	理念の学び、話合い、対抗ゲーム等	70
7/24	アンガーマネジメント	(心理士) 小淵朝子	怒りの原因、解消方法、自己分析等	20
7/25	同一労働 同一賃金	(社労士) 小山圭子	正規職員と非正規、:法改正への取組手順	34
8/1	安全運転講習会	(企業より派遣) 金子	ドライバーレコーダーから見える事故対策	20
9/3	誕生月研修	(理事長) 長澤道子	理念の学び、話合い、対抗ゲーム等	46
9/5	コミュニケーション研修II	(理事) 伊藤 巧	2等級職員のコミュニケーション	3
12/25	管理者研修	小山顧問社労士	同一労働・同一賃金に関する研修会	24
1/22	事務員研修	小山顧問社労士	知っておくべき労働関連法規	21
1/28	誕生月研修	(理事長) 長澤道子	理念の学び、話合い、ゲーム等	42
3/5	高齢部門別研修	(施設長) 吉田陽子他	正しい介助技法について	
3/24	誕生月研修		コロナウイルス感染拡大のため中止	中止

I 活動方針並びに課題

1 全体の課題について

(1) チーム支援の推進等について（虐待防止）

委員会活動に複数部門の職員が参加し、PC メール等の情報発信が増えたことにより、部門間、職員間の情報共有は前進した。

(2) 短期入所、日中一時支援の受入れの拡大について

相談と支援部門の努力により緊急対応ニーズ等に應えることができた。結果、短期入所は利用率前年度比 27.7%増の 33.0%、日中一時支援と合わせて 69.0%となった。

(3) 4年前の虐待事件への取組み（再発防止）

個別支援計画を中心とした支援の統一、リーダーの役割の明確化と個々の職員における専門職の意識と責任の育成、虐待にグレーゾーンはないことを前提とした対応を行ってきたが、年度末に「不適切な支援」が発生したことから、再発防止策が適切に機能しているとは言えない。ただし、不適切な支援が発生した後の担当者等職員の取組みは適切であった。

II ご利用者と職員の状況

1 ご利用者

(1) 施設入所支援（2020年3月31日現在）

定員 50名、現員 47名 男性 28名、女性 19名 利用率 93.9%（前年度比-2.2%）
平均要支援区分 5.89 平均在所年数 24.0年 平均年齢 52.6歳 退所 1名 入所 1名

(2) 生活介護（2020年3月31日現在）

定員 50名 現員 49名 男性 29名、女性 20名 利用率 91.6%（前年度比-2.3%）
利用停止 1名（男性 1名） 新規利用 1名（女性 2名）

(3) 短期入所（ショートステイ）と日中一時支援（日帰りショート）

定員 4名 実人数 9名 延べ利用者数 483名 利用率 33.0%（前年度比+27.7%）
緊急対応等の受け入れが進み、実人数、延べ人数共に増加した。日中一時支援（日帰りショート）は、実人数 11名 延べ利用者数 527名

2 職員

(1) 職員配置の状況（2020年3月31日現在）

支援部門は、主任生活支援員 1名、副主任生活支援員 4名、生活支援員 26名（正規 16名（内 2名兼務）、準職 1名、パート 9名（内 3名兼務）、業務員 3名（兼務）、看護部門は看護師 2名（正規 2名（内 1名外部兼務））*正規 1名減、調理部門は栄養士 1名（正規 1名）、調理員 5名（正規 2名、嘱託 1名、パート 2名）、相談部門は、主任サービス管理責任者 1名（兼務）、サービス管理責任者 1名（副施設長）、事務部門 施設長 1名（兼務）、副施設長 1名（兼務）、事務員 2名（内 1名兼務）

(2) 入退職、人事異動の状況

新規採用 3名（生活支援員パート 2名、看護師正規 1名）、退職者 3名（生活支援員正規 2名、看護師正規 1名）、転入 2名（生活支援員正規 1名、パート 1名）、転出 2名（サービス管理責任者兼生活支援員 1名、生活支援員正規 1名）

III サービスとケアの内容

1 生活介護・施設入所支援

年間行事は、ホットプラン（外出・6～12月）、七夕、納涼祭、日帰り懇親会、クリスマス会、新

年会、節分を開催する。月間行事として誕生会、出張カフェ（隔月）、アロママッサージ（月1回）、遊び別セッション（月1回）、紙芝居ボランティア（3か月に1回程度）が始まる。また、利用者個別契約のフルト教室、日課として午前は散歩（雨天ドライブ）、午後に入浴を実施。

2 健康管理

(1) 受診実績

内科196名、精神科406名、耳鼻科88名、皮膚科52名、歯科45名、眼科36名、整形外科24名、泌尿器科20名、外科18名、その他23名 合計908名 1日平均2.5名 前年度比-15名。内科が約100名減、精神科は定期訪問診療等を理由に約100名増。

(2) その他

年度途中診療所の管理医変更。田代医師月1回、訪問医療マッサージ（週2回）、理学療法（毎月2回）健康診断（4月、10月）、歯科検診（5月）、インフルエンザ予防接種（12月）。

IV 防災並びに交通安全

消防計画に基づき、毎月1回の訓練を実施した。また、公務中の交通違反や事故はない。

V 苦情や虐待その他への対応

苦情は1件、内容は、支援の質が実習生を送るレベルではない、ヒヤハットは63件、転倒、転落が最も多い、事故は137件、落葉など薬関係が多いことが大きな課題、虐待は0件だが、不適切な支援1件発生。身体拘束はルールに基づき必要な手続きを経て行ったものがある。

VI 家族や地域

家族については、家族便り「みのり」を毎月発行し情報提供、年3回のふれあい（帰宅）期間、年3回の家族参加行事開催、職員の保護者会への参加、年2回の個別支援計画の説明、家族・利用者アンケートの実施。利用者と家族の昼食会を開催した。地域は、町内会の準会員として地域行事へ参加する。同地区小学校の入学式出席等。年末行事への地域関係者を招待する。

VII 実習生やボランティア

- 1 実習生 11教育機関 実人数38名、延人数283名の受け入れを行う。
- 2 ボランティア 調理1名、繕い物2団体（延べ18回）、アロママッサージ1名（延べ11回）、地域老人会1回、紙芝居3回、音楽16回、保護者会草刈り2回、行事手伝い等

VIII 環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

工事は、サニタール屋根ガラス補修、居室35ドア改修、玄関ホール照明取替工事他、大ホールへのレクリエーションルーム設置については次期へ。備品等購入は、中ホール共有テレビ、空男子棟共有テレビ、歩行器メウオーク他。その他として、エアコンフィルター清掃年2回、エアコン吹き出し口清掃1回、大ホール・食堂床面ワックスがけ1回、敷地内の雑草等についてはシルバー人材センターへ定期的（週1~2日）に依頼した。

IX 職員研修

内部研修6回（計画比+3回）、外部研修参加総日数154日（前年度比-58日）正規職員参加率100%、ただし、パートタイマー5名が外部研修不参加、見学は実施できなかった。

X その他

支援部門の組織の明確化については、組織図の作成を実施。職員だよりは10回発行（計画比-2回）、利用者・家族アンケートは1回実施（計画比±0）、自己サービス評価1回実施、全職員面談実施、敷地内整備をシルバー人材センターに定期依頼、法人外部事業所職員による宿直増。

I 活動方針並びに課題

1 基本方針について

法人が掲げる基本理念に沿い、事業計画及び運営規程に沿って実施した。

2 課題

- (1) ご利用者の特性に合わせた環境設定・改善に関してはコスモス棟中庭の解放、ボールプールの移動等で保有する用具活用の幅を広げた。年度末に環境改修を予定していたが新型コロナウイルス感染症の影響もあり工事日程を2020年度以降に変更した。
- (2) 人材確保に関しては2019年度に成果はでなかったが、実習生の中に2020年度に来寮し就職を目的とした面談を希望する学生が2名。実習生に対しても人材確保の意思を伝えてきたことは一定の効果があったと思われる。
- (3) 全体会議の時間を活用し、個々の特性について学ぶ機会は多く得ることが出来た。外部の障害特性を学ぶための研修参加機会を作ることが出来ればさらに効果が上がったと考える。

II 利用者と職員の状況

1 利用者について

- (1) 定員30名、現員29名（男性21名、女性7名）
- (2) ショートステイ(宿泊)利用定員5名、日中一時支援(日帰り)利用定員9名で実施。

2 職員について

職種別：施設長1名、サービス管理責任者兼副施設長1名、看護師1名、栄養士1名
支援員23名（内準職3名、パート6名）、事務員2名(内パート1名)

III サービスとケアの内容

1 生活介護・施設入所支援

- (1) 日課の散歩・作業について実施数は減少したが、個別対応の散歩は増加。月1～2回の小外出、特別外出を実施。月1回の外部講師による音楽活動、訪問マッサージの利用を継続。年度末は新型コロナウイルスの影響もあり、行事・活動を自粛することもあった。
- (2) 健康管理

科名	精神科	内科	整形	外科	呼吸器	耳鼻科	眼科	その他
件数	241	27	20	14	13	8	6	13

歯科については訪問歯科にて対応。

2 短期入所・日中一時支援

短期入所の緊急時の対応、日中一時支援の新規利用等でご利用者が増加したが、年度末新型コロナウイルス感染予防のために利用規模を制限しサービスを自粛した。

IV 防災並びに交通安全

1 防災

- (1) 火災及び地震に対する計画に基づき防災訓練を行った。火災に対しては、消防署の指導を参考に出来る限り実際に対応出来るような形で実施。地震に対しての準備・検討を行った。6月に心肺蘇生、AED作動・煙体験訓練を消防署より受ける。

(2) 地元坂2町内会の防災総合訓練に参加。今後も地域とのより細かな協力体制が課題。

2 交通安全

事故等起きないように日頃より心掛けて来た。

V 苦情や虐待その他への対応

- 1 苦情 0件
- 2 事故報告 37件 散歩中の把握不注意からくる事故が増加。
- 3 ヒヤリハット 83件 服薬に関する報告が増加。
- 4 虐待 年2回チェックリストによる振り返りを実施。
- 5 身体拘束 3要件を満たしたうえでの拘束同意書を家族から頂く。緊急やむを得ず拘束を行った場合は個人記録に記載。

VI 家族や地域

1 家族

家族とは年2回の個別面談、奉仕作業、総会、行事、ふれあい期間の案内等を発送することで、定期的に保護者との連絡・情報交換を行う。後期面談は感染症対策から規模を縮小して実施した。

2 地域

月1回の地区の班長常会に出席。坂部ふれあいサロンの送迎にも協力をした。

VII 実習生やボランティア

1 実習生の受け入れ

障がいを持つ方々と接する経験は、人を理解する上で大変大きな意味を持つと考え、これからの社会を担う人を育てるという意味からできる限り積極的に受入をしてきた。

2 ボランティアの受け入れ

実習に来た学生が行事にボランティアとして参加したが、日常定期的にボランティアを受け入れる機会がなかった。

VIII 環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

- 1 さくら棟の女性トイレを車いす利用でも使用しやすいように改修。
- 2 コスモス棟蛍光灯をLED照明器具に交換する。
- 3 コスモス棟間仕切り工事、配膳室改修工事に関しては3月に実施予定だったがコロナウイルス感染症の影響を考慮し来年度へと持ち越しとした。

IX 職員研修

ご利用者個々の特性について施設内で研修を行う頻度は多かったが、今年度も外部への研修機会を多く作り出すことが出来なかった。やまばと希望寮が県知協の研究集会の当番施設だったため、この時には多くの職員を配置・参加させることが出来た。

X その他

3月に入り新型コロナウイルス感染症の影響が色濃くなってきた。施設入所しているご利用者の健康も大事だが、地域における緊急時の役割もよく考え、施設の現状を正確に把握したうえで利用に関しての判断をする必要がある。

2019(令和元)年度事業報告

共同生活援助事業（介護サービス包括型）

わかば・もくれん

I 活動方針並びに課題

1 基本方針について

法人が掲げる基本理念に沿い、事業計画及び運営規程に沿って実施した。

2 課題

- (1) 困難な事例に対して情報を全員で共有するだけでなく、職員の多様な意見をまとめ、チームとしてご利用者に関わる姿勢を意識づけし、安心した生活を目指し支援をした。
- (2) 高齢化による心身の重度化は着実に進行し、医療との連携を密にするだけでは、対応に苦慮することもあり、他施設への移行も視野に入れる必要性が高まった。
- (3) 年度当初に比べ人材の補充はできたが、「もくれん」の夜勤が出来る職員の確保には至らなかった。

II 利用者と職員の状況

1 利用者について

(わかば) 定員 10 名、現員 10 名（男性 10 名）

(もくれん) 定員 10 名、現員 10 名（男性 6 名、女性 4 名）

2 月 12 日わかばご利用者 1 名 障害者支援施設 に移行する。

2 職員について

施設長(希望寮及び生活支援員兼務)1 名、サービス管理責任者(生活支援員兼務)1 名、生活支援員 9 名、世話人 12 名、夜間専門員 4 名、事務員 1 名

III サービスとケアの内容

1 自由で伸び伸びした生活空間を創り家庭的な生活を楽しんで頂く。

- (1) 情緒が不安定になり他害等、他利用者への影響が強くなる行動に対しての対応として、男性職員の配置、配置困難な場合へは隣接施設への支援を要請した。
- (2) 利用者のこだわり、本人の理解度等により苦慮することも多く、生活上問題が生じた場合、当事者が納得できる出来る形で解決を図るよう時間を掛けて取り組んだ。ケース会議を定期的開催し関係機関の助言も頂いた。
- (3) 自立した生活を目指し、出来ることの可能性を広げた。ひとりひとり役割分担を考え、お互いの生活を豊かに出来るよう取り組んだ。

2 土曜日・日曜日等の過ごし方

- (1) 買い物や調理のお手伝い等、生活を実感出来る体験を取り入れ休日の楽しさを感じて頂く支援を実行した。
- (2) 外出する機会を計画・実施し、バス・電車などの公共交通機関を利用して移動することで、地域で生活していることを体験し実感に繋げた。
- (3) 自分達の生活する空間を清潔に保つことが、快適な生活環境に結びつくこと体感し理解して頂けるよう繰り返し声掛け・支援を行った。

3 健康管理

規則正しい生活習慣を整えることで体調管理に努めた。また、外出後の手洗い・うがい、食後の口腔ケアの徹底することで、感染症の予防に努めた。医療にも関わることが増えてきたため通院記録の周知にも努めた。歯科については訪問歯科で対応をした。

IV 防災並びに交通安全

1 防災

災害が起きた時の職員召集の判断、避難場所への移動のタイミングについての基準を見直したが、訓練のための土・日・祝日の職員確保が困難だった。

2 交通安全

ご利用者の通院・送迎の際だけでなく、車両運行する際には常に事故を起こさないよう心掛けて来た。

V 苦情や虐待その他への対応

1 苦情

0件

2 事故

21件 転倒に関する件数が増加

3 ヒヤリハット

8件 利用者の接触に関する件が多い

4 虐待

0件 サービス提供指針・虐待防止マニュアル・チェックリストを活用し虐待防止の意識を深めた。

5 身体拘束

3要件を満たしたうえでの拘束同意書を家族から頂く。緊急やむを得ず拘束を行った場合は個人記録に記載。施設内研修を実施する。

VI 家族や地域

1 情緒が安定し家族の関りが増えた方がいる一方で、帰宅の機会を持てなかったご利用者も多く、グループホーム、家族、関係機関でご利用者を支えていくことの確認に時間を費やすことが充分でなかった。

2 通所先での行事に参加することはできても、グループホームで地域に暮らす一員として地域の活動等に参加することが不足していた。

VII 実習生やボランティア

1 実習生 なし

2 ボランティア 1名。地域住民に福祉施設を知ってもらえるよう努めた。

VIII 環境整備

建物内の清掃に努めた。心地よく生活が送れるよう、清潔を保持。施設建築から10年が経ち劣化が気になることも増えたが今年度の改修等は実施しなかった。わかばでは脱衣場、もくれんでは雨どいを定期的に点検にする必要性ある。

IX 職員研修

非常勤のパート職員が大半を占めることもあり、法人外部の障害特性、てんかん講座等の専門性を高める研修が実施はできなかったが、ご利用者個人を理解することを目的に法人内職員に講師を依頼。自閉症についての研修を実施することが出来た。

X その他

グループホームでの支援を考慮し高齢化するご利用者の移行について、検討・計画を始めた1年となった。

2019(令和元)年度事業報告

共同生活援助事業所（介護サービス包括型）

みぎわ

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

- (1) 『ともに生きる』を意識し利用者支援、事業所運営を行ったが、職員とともに、地域とともにという部分では目標達成度は低い。
- (2) 「5つのたいせつ」②職員④地域⑤聖書を大切にするという部分の意識は低かった。
- (3) 「わたしたちの願い」地域のニーズや地域とのつながりといった意識は低かった。
- (4) 福祉職員として成長はあったが、事業所の成長への貢献や地域への貢献に繋がっていないという実感は得られていない。

2 課題

- (1) 職員の都合になってしまった部分もあったが、7割程度はご利用者の立場に立ったサービスを提供できた。
- (2) 8月に職員1名が退職、2月にはもう1名が退職となってしまった。誰もが働きやすい事業所という目標は達成できなかったが、人手の少ない中、職員がチームワークを持って乗りきることができた。
- (3) 研修に関しては課題も多く、22回の内部・外部の研修に参加できた。ただし、正規職員が参加することが多く、事業所にて研修内容を広めるまでには至っていない。
- (4) 他の障害者福祉サービスとの連携は7割程度達成できたと思うが、他の事業所より苦情もあり課題を残す。個別に地域住民の方に助けられているご利用者もいるが、事業所と地域という繋がりには課題がある。
- (5) サービスの内容等に関する情報公開については、12月から2か月に1度、「ご家族だよりみぎわ」の発行を始めた。

II ご利用者と職員の状況

1 ご利用者について

15名（男性12名、女性3名）入退所なし、利用率95.0%、平均障害程度区分3.3

2 職員について

(1) 職員配置の状況（2020年3月31日現在）

管理者1名（他事業所兼務）、サービス管理責任者1名（兼務）、生活支援員2名（内1名兼務）、世話人9名（準職員1名（兼務）、パート6名、他事業所兼務2名）、事務員1名（兼務）

(2) 入退職、人事異動の状況

6月事務員（準職員）採用、8月パート職員退職、11月管理者交代、11月正規職員1名採用、1月パート職員採用、2月準職員退職、3月サービス管理責任者事業所異動

III サービスとケアの内容

- 1 日中活動先との連携は7割程度達成できた。苦情が出た事業所があり、連絡帳を開始し、情報交換を行った。
- 2 職員によって理解に違いがあり、対応の相違により、ご利用者が混乱する場面もあった。
- 3 定期受診に関しては、ご家族の協力も得られたが、職員が行う通院が多い。
- 4 体重測定は毎月実施した。バックアップ施設の栄養士はじめ、調理部門との連携は図れたが、看護師との連携はなかなか図れず、通院を行うケースが多かった。
- 5 誕生月には誕生会を毎回行った。

- 6 散歩、ドライブは定着している。8月以降、個別外出は行っていない。季節の行事もバックアップ施設の催し物に参加したり、地域の夏祭りに参加はした。
- 7 移動支援事業所を利用し、2名のご利用者が毎月外出を行った。
- 8 あおば棟ご利用者の自治会は年会2回しか開催していない。
- 9 虐待防止受付担当者、虐待防止責任者は定めている。

IV 防災並びに交通安全

- 1 防災訓練を年間で2回実施した。バックアップ施設まで避難する訓練を行った。
- 2 利用者の送迎は、高齢の職員の際には、バックアップ施設の事務員の協力を得た。また、安全運転に努めた。
- 3 自転車を使用するご利用者については、安全運転を意識して頂いた。

V 苦情や虐待その他への対応

- 1 苦情 1件 また、ご家族より苦情に近い要望が1件あった。苦情に関しては、改善の為、連絡帳の使用を開始し、また、事業所間の見えない部分の共有を行っている。要望に関しては、関わった職員に事実確認を行い、ご家族からの要望をお伝えした。
- 2 事故 7件
- 3 ヒヤリハット 0件 引継ぎノートに記入がされるようになり、情報の共有がしやすくなった。全職員が共有できる形ではあるが、浸透するまでには時間が必要である。
- 4 虐待 0件 虐待の可能性がある事案はなかったが、夜間は職員1名体制の為、他の職員から見えない状況になっている。今後、ご利用者の原因不明な事故の確認や防犯、また、虐待等を未然に防ぐ意味も込め、防犯カメラの設置を予定している。
- 5 身体拘束 パニック時のクールダウンを目的に、ルールに基づき、必要な手続きを経て行った。

VI 家族や地域

- 1 「ご家族の集い」は3月に開催した。
- 2 ご家族とのふれあい行事は行わなかったが、面会に来られた際に、自由に事業所内見学や利用者との交流を行っている。
- 3 地域の運動会やお祭りに参加した。

VII 実習生やボランティア

実習生、ボランティアの受け入れはなかった。

VIII 環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

- 1 補修等が必要な場合でも、居室のドアがない状態で1週間過ぎて頂いたご利用者がいたなど速やかな対応ができなかった。
- 2 玄関ドア修繕、食堂カーテン交換、駐車場外灯設置工事を実施する。

IX 職員研修

1名を除き、1回以上の研修に参加することが出来た。交換実習は、今年度は行えなかった。

X その他

わかば・もくれんとの交流会は行えなかった。
利用者・家族アンケートを実施した。

2019（令和元）年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンターさざんか

I 活動方針並びに新年度の課題

1 基本方針について

私たちは、牧ノ原やまばと学園事業計画に沿って事業を実施した。

2 課題

- (1) 利用者の希望を、反映できるように視覚的要素(写真など)を用いながら外出先、おやつやハロウインの仮装の選択支援にあたることができた。
- (2) 新しい職員が 8 名と半数以上を占めていたため、人材育成に努めることが難しく、また、職員の定着もできなかった。
- (3) ご利用者に対し安心・安全な介護支援を、職員に対し負担軽減のための福祉用具(スライドシート)を導入するとともに福祉用具の見学、体験、レンタル使用を行い、今後の導入について検討を行うことができた。

II 利用者と職員の状況について

1 利用者について

定員 20 名、利用登録者数 21 名。（医療行為が必要な利用者 2 名）

他事業所を利用しながら生活する場所を検討するため 8 月から利用されず令和 2 年 3 月 31 日に他事業所に移行された。（1 名）

2 職員について

4 月～12 月 職員数 13 名 施設長・サービス管理者(正職 兼務) 1 名
看護師(パート) 1 名 生活支援員 10 名(正職 2 名 準職 1 名 パート 8 名)
事務員(正職 兼務) 2 名

1 月～3 月 職員数 12 名 (パート職員 1 名退職)

7 月 12 月 長期に病気休職された職員がそれぞれ 1 名あり

III サービス、ケアの実施内容について

サービス実施状況

- ・送迎サービス：希望者 20 名毎日実施
他事業者への送迎については、希望あった時随時実施
- ・入浴サービス：今年度は職員不足のため実施せず
- ・行事として、クリスマス会・ハロウィン・食事会を行った。
マーガレットの夏祭り、希望寮の運動会、オリーブ園のオリーブ摘みなど他事業所との交流も行った。
- ・クラブ活動(4 クラブ)は、今年行わなかった。

IV 防災及び交通安全について

- 1 全員参加の防災訓練 2 回(火災訓練は消防署立会い、地震想定)、通信訓練(安否コール)毎月 1 回実施した。

防災訓練は、利用者の安全面を配慮しながら実施することができた。

- 2 送迎時の縁石への接触、タイヤのパンク 送迎車のボディ底をこする バンパーとスロープ手すりの接触による傷など 3 件の車両関係の事故および軽度の車体損傷あり。公用

車で出かける時は、交通規則を遵守し安全運転に十分に心掛けるように職員会議等で伝えた。

V 苦情や虐待その他への対応

- 1 苦情 5件 2 事故 33件 3 ヒアリハット 24件 4 虐待 0件
5 身体拘束 該当者(6名)の保護者には文書にて説明し承諾書を得ている。
また、拘束実施の有無を連絡帳を用いて毎日家庭に伝えている。

VI 家族や地域

- 1 家族との関係
年4回の保護者会を開くことができた。
「さざんかだより」の毎月の発行、各種行事の「号外号」を3回発行した。
- 2 地域との交流
12月雙葉学園のクリスマス訪問で生徒と利用者の交流があった。
9月に開催された『坂口谷川彼岸花とかかし祭り』に参加し最優秀賞を頂いた。

VII 実習生、ボランティア等

- 1 実習生の受け入れ
今年度は利用者、実習生の安全面に配慮し受け入れを行わなかった
- 2 ボランティアの受け入れ
お話ボランティア(隔月)・音楽教室(毎月)・笑いヨガ(隔月)・第一興商レク(隔月)を受け入れ、利用者と交流した。
日赤奉仕団の受け入れは、やまばと希望寮と協力して環境整備をしていただいた。

VIII 環境整備

天井の数ヶ所に、雨漏り、カビがあったため修繕したがその後も大雨が降ると雨漏りすることあり。
火災報知機が故障したため修理を行った。

IX 職員研修

外部研修への参加の機会は多く持つことができなかったが支援者会議内でミニ勉強会を5回、市さざんか歯科衛生士によるブラッシング講座を1回行った。

XI その他

- 1 クラブ活動は実施することが出来なかったが個別外出や毎月の誕生会は実施することが出来、楽しい時間を過ごすことが出来た。
- 2 他事業所との交流をかねて運動会に希望者が参加した。納涼祭は実施せず。クリスマス会、食事会など特別プログラムは参加希望を取り実施をした。
- 3 長い間、検案事項であった建設計画が適切な土地が確保できたため急速にすすむこととなった。

2019（令和元）年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンター野ばら

I 活動方針並びに課題

- 1 職員のチームワークと知識、技術向上に関して、法人内・外部研修合わせて21件に参加した。施設内研修では、アングーマネジメントを学び、サンクスカードを活用して職員間の関係向上を図った。ただ外部研修への参加者に偏りが見られ、職員同士のコミュニケーションにも課題があると考えている。（達成率70%）
- 2 サービス管理責任者のスキル向上に関して、更新研修へ参加した。法人内のサビ管が集まって勉強会も実施した。今後も継続が必要と考えている。（達成率70%）
- 3 給食サービスに関して、毎日栄養、味、見た目に工夫され、地域の食材も取り入れたメニューを提供出来た。ご利用者のご家族にも給食を食べて頂いた。（達成率80%）
- 4 事務業務の効率化に関して、3施設の事務が一緒に働き情報の共有が出来た。障害部門の事務職員での会議や外部研修へ参加し、業務スキルの向上を図った。（達成率70%）
- 5 施設長の働きに関して、ご利用者、ご家族へ施設運営に関するアンケートを実施し、意見の確認を行った。職員の計画的なスキルアップには課題が残っている。（達成率70%）

II 利用者と職員の状況

- 1 利用者について（2020年3月31日現在）
 - (1) 生活介護
定員20名、現員20名（男性11名、女性9名）、4月1日に1名の新規契約者あり。
開所日数253日、延利用者数4,666名（前年度比-112名）、利用率92.0%（前年度比-2.4%）平均利用者数18.4名（前年度比-0.5名）
 - (2) ライフサポート事業
実用者数5名、延利用者数35名（前年度比+1名）、総利用時間数87.5時間（前年度比+6.5時間）
- 2 職員について
 - (1) 職員配置の状況（2020年3月31日現在）
施設長1名、主任サービス管理責任者1名、看護師1名（他事業所兼務）、生活支援員12名（内訳：正職2名、準職2名、パート8名）、調理員1名、事務員1名（他事業所兼務）：計17名
 - (2) 入退職、人事異動の状況
転入1名（生活支援員・パート）、退職者1名（生活支援員・パート）

III サービスとケアの内容

- 1 健康管理について
保護者との間で連絡ノートや登・降所時の引き継ぎ等で情報のやり取りができた。4月、10月の健康診断、5月の歯科検診、11月にはインフルエンザ予防接種を行った。
- 2 感染症対策について
登所、出勤時毎日の検温、定時の換気、手洗い、流行時期にはマスク着用を実施した。
- 3 個別支援、活動支援について
 - (1) 個別支援計画について
面談によるアセスメント、ケース検討会を経て、年2回モニタリングを実施し、再プラン、家族等へ説明した。
 - (2) 家族支援について

ライフサポート事業や垂徳寮日中一時支援との連携を中心として、延長支援を行った。

(3) 日課、余暇活動等について

散歩（長距離、中距離、マンツーマン）、作業（園芸、アルミ缶つぶし、屋内手作業）、リハビリ等の日課に加え、年間行事として、カフェ、七夕の会、フェスタ野ばら、動物ふれあい訪問、日帰りバス旅行、クリスマス会、節分の会を実施した。

(4) 外部講師による活動について

毎月の活動として、レクダンス、絵画教室、リフレクソロジー、理学療法を実施した。作業療法士による助言の機会、歯科衛生士によるブラッシング指導を1回実施した。

IV 防災並びに交通安全

1 防災について

毎月1回の火災、地震に対する避難誘導訓練を実施した。法人の安否コール訓練も毎月実施した。ただ災害時を想定した備えと、近隣3事業所との協力、連携にも課題がある。

2 交通安全について

送迎時の公用車による自損事故が1件、交通違反はなかった。

3事業所の安全運転管理者を選任し、交通安全協会の必要な対応を行うことができた。

V 苦情や虐待その他への対応

1 苦情 0件（前年度比-1件）

2 事故 18件（前年度比-6件） *1~3を毎月施設だよりへの記載を実施した。

3 ヒヤリハット 70件（前年度比+48件） 積極的に記録して、事故減少に繋げた。

4 虐待 0件

5 身体拘束 13件 安全確保の為、エリア分けを行った。

VI 家族や地域

1 家族について

年2回の支援計画説明のための個別面談、送迎時の情報交換、毎月開催の保護者会への参加、年2回の行事（フェスタ野ばら、クリスマス会）への招待、バス旅行、毎月発行の家族便りにより交流や情報提供等を行うことができた。

2 地域について

島田市障害者自立支援協議会に関わる会議、研修（計5回）に出席した。

利用者に関する他事業所出席のケア会議（計10回）に出席した。

VII 実習生やボランティア

1 実習生 学生等実習 実人数3名 延人数3名

2 ボランティア 計9名と1団体、延日数20日、配膳、繕い物、ゴミ袋作りなど

VIII 環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

多目的トイレの便座の交換、収納棚の設置等

IX 職員研修

内部研修1回、外部研修参加日数延69日（前年度比+15日）

X その他

2019年5月より正職1名がグループホームみぎわ（世話人）の兼務となった。

2019(令和元)年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンターかたくりの花

I 活動方針並びに課題

1 基本方針について

法人が掲げる基本理念や運営規定に沿って事業を実施した。

2 課題

- (1) 支援計画での自立・健康・生活を柱として支援提供した。意思決定支援にも力を入れ、ご利用者一人ひとりの思いをくみ取る為に利用者会議を開いた。昨年度に比べスムーズに会議を進めることが出来るようになり、満足度がアップした。
- (2) 毎朝の職員のミーティング時にサービス提供指針輪読実施。また、渡辺シスターの日々のメッセージも輪読し、一言感想を発表し合いチームワークの向上を目指した。

II 利用者と職員の状況

1 利用者について

定員 20 名 4 月新規利用者受け入れ 1 名あり。契約 22 名でスタート。

9 月 30 日付けで 1 名他事業所へ移行された為、現員 21 名。(男性 14 名・女性 7 名)

年間	開所日数	総利用者数	1 日平均利用者数
	253 日	4580 名	平均 18.1 名

2 職員について

施設長兼サービス管理責任者 1 名、主任 1 名、正職 1 名、準職 3 名、パート 6 名でスタート。5 月パート 1 名採用、9 月準職 1 名退職、10 月準職 1 名採用、2020 年 2 月パート職員コスモスより異動 1 名、3 月末パート職員 2 名家庭の事情により退職。

III サービスとケアの内容

1 サービスについて

- (1) 利用日、営業時間について：ご家族の用事に合わせてかたくり独自の延長サービスを無償で 32 回受け入れ実施。
- (2) 送迎について：利用者の安全・利便性を確保するため、曜日により 2～3 台の車で実施し、可能な限り希望時間等に添えるように実施。通常家族送迎のご利用者が、家庭の事情により急な送迎希望時にも速やかに対応実施した。

2 ケアについて

- (1) 個別支援計画について：生活介護の目的を踏まえた個別支援計画になっているか、毎月の各ケース会議や全体会議、年 2 回のモニタリング時に評価と見直しを行った。
- (2) 健康管理について：インフルエンザ予防接種と年 2 回の健康診断実施。日頃から連絡ノートを活用し、毎朝の検温や家庭での様子確認。日中の様子と体調の異変等記入し情報の共有と健康管理を行った。また、インフルエンザ・コロナウイルス・花粉症対策として、手洗い、うがい、マスク交換、加湿器、水分補給等予防に努めた。
- (3) 活動について：支援の 3 本柱である音楽活動、動作法、スヌーズレンを実施し、リフレや季節の行事も予定通り実施。意思決定支援を目的とした利用者会議を 34 回開き、自分の思いを他者に伝え支援者は気持ちを引き出し・くみ取る支援を実施した。準備や進行がスムーズになり、昨年度に比べ回数は減ったが満足度は上がった。年 2 回の個別プログラムでは、6 月「はままつフラワーパーク」・10 月「どんどこあさばに美味しいお豆腐料理を食べに行こう」を実施した。

IV 防災並びに交通安全

- 1 防災：生活必要水確保の為 20ℓ 遮光ポリタンク 5 個に貯水実施。水の交換も実施。
5 月と 11 月に施設防災の日は避難・通報・非常食試食・水消火器で訓練を行なった。
かたくりの花独自で安否コール 4 回実施。返信率 100%2 回・携帯機種変更や返信不具合により 92%2 回。法人の安否コールと合わせて実施することで職員の意識が高まった。
- 2 交通安全：法人で開催する交通安全講習会に参加。12 月接触事故 2 件あり。共に大きな事故では無かったが、安全運転について再検討し安全確保を行った。

V 苦情や虐待その他の対応

- | | |
|-----------------|------------|
| (1) 苦情：0 件 | (2) 事故：4 件 |
| (3) ヒヤリハット：50 件 | (4) 虐待：0 件 |
| (5) 身体拘束：0 件 | |

VI 家族や地域

- 1 家族との交流について
連絡ノート及び施設だよりにより、利用者の様子について情報を共有するよう努めた。
保護者会は 2 ヶ月毎に行うよう希望があり、偶数月に 6 回実施した。
- 2 地域との交流について
クリスマス会の参加を地域や、アルミ缶回収でお世話になっている大井川鉄道金谷駅売店職員にも参加の呼びかけを行う。地域の方々も高齢になり、体調不良等で不参加となった。
地域のアルム喫茶店に、行事時のコーヒー提供のお礼と社会体験も兼ね 4 月に訪問した。

VII 実習生やボランティア

- 1 実習生の受け入れ：吉田支援学校・2名 藤枝支援学校・1名受け入れ実施。
- 2 ボランティアの受け入れ：アルム珈琲店（コーヒー提供2回）岩本造園（庭の手入れ5回）そば打ち体験 保護者1名（畑苗植え等3回）元職員ボランティア（修繕、行事手伝い3回）

VIII 職場環境

- 1 腐食による浄化槽マンホールのフタと枠、点検時に破損確認した「ウキ」取り付け工事実施。作業棟玄関ドア破損しスムーズに開閉出来ない為 3 月工事を計画していたが、雨天の為実施出来なかった。業者の都合により 4 月に予定している。

IX 職員研修

法人外研修 22 回、法人内研修 17 回、現場が許す範囲で積極的に参加した。
全体会議後の 30 分研修は、風邪が流行っていた 12 月と 1 月は中止し 10 回実施した。

X その他

- 1 散歩や活動・食事やトイレ介助等の場面ごとに気持ちをくみ取る支援を提供した。
- 2 畑で収穫した野菜をどんな料理にして食べるか等、色々な場面で利用者会議を実施した。
- 3 登所後に動作法による体幹を鍛えるマッサージを提供。毎月のリフレクソロジーも実施。
- 4 PC 随時交換の為、9 月に 1 台・10 月に 3 台交換実施。
- 5 音楽活動の幅を広げるために、シロ BOX2 台・桶太鼓 1 台・ハンドドラム大小各 2 台・ボンゴとジャンベ各 1 台購入し、クリスマス会に楽器を使い素晴らしい演奏へと繋がった。演奏後は自信と達成感でいっぱい表情になり、ご家族も感動していた。

2019（令和元）年度事業報告

就労継続支援A型事業所
ワークセンター カサブランカ

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行った。

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

法人が掲げる基本理念及び事業計画に沿って事業を実施した。

2 課題

- (1) 個別支援計画に基づき、ご利用者の状況把握、課題整理、目標設定を行い、年2回のモニタリングで評価、見直しを行った。また、各支援機関と連携を取りながら、それぞれのご利用者に寄り添ったサービスを提供した。
- (2) 精神障がいの方の利用が増加しているため、医療を始め専門知識を有する関係機関や先進企業との連携を取りながら、必要に応じてケア会議の開催を行い、社会復帰の手助けをした。一般企業へ2名の方が就職した。
- (3) ご利用者の作業能力の向上の他、一般就労に必要な知識の習得や社会経験を増やすことを目的として、6月（漢字・計算の勉強会）10月（歯のブラッシング指導）12月（地域掃除）を行った。

II ご利用者と職員の状況

1 ご利用者

定員	登録者数	開所日数	延利用者	1日平均	利用率
15名	13名	245日	3054人	12.4人	83.1%

- ・新規利用者 3人（精神0人、知的3人、身体0人）
- ・契約終了者 4人（精神2人、知的1人、身体1人）

2 職員

事業所管理者（他事業所兼務）1人、サービス管理責任者（正職・専任）1人
職業指導員（嘱託）1人、（パート）2人、生活支援員（準職員・兼務）1人

合計6人

III サービスとケアの内容

1 就労継続支援A型事業について

- (1) 就労継続支援A型事業所として運営を行い、知的・精神的・身体的障害のある人に対し、雇用契約に基づく就労の機会を提供した。
- (2) ご利用者は、雇用契約に基づく就労が可能と見込まれる者であって、一般就労に必要な知識・能力の向上のために必要な訓練を実施した。
- (3) 島田市から「資源類中間処理業務」の委託を受け、白色トレイ・ペットボトル・牛乳パック等の、回収資源ごみの選別・梱包、白色、茶、その他の色ビンの選別等を行った。
- (4) 一般就労が可能な方には関係機関と連携を取りながら、求職活動の支援、職場実習の実施や職場定着の為の支援を行った。（就職先：(株)白井産業、日本ハム(株)）

2 健康管理について

年1回の健康診断や歯科医師または歯科衛生士による歯磨き指導を実施するなど、医師や家族と連携、通院同行等を行い、健康管理に努めた。

3 教養娯楽について

業務遂行に支障のない範囲で、慰労会・クリスマス会、一泊旅行等を実施した。

IV 防災並びに交通安全

- 1 「地震・風水害対応マニュアル」「災害時事業継続計画」「消防防災計画」に基づき対応し、毎月の防災訓練、年1回の総合防災訓練及び備蓄品の点検を実施した。食品及び保存水の購入をし追加備蓄とした。
- 2 通勤手段として自転車、自動車通勤の方がいるため、日頃から交通安全に対する意識付けを行うとともに、交通指導員による交通安全教室を開催し、道路交通法を守り安全に通勤することができるよう努めた。

V 苦情や虐待その他への対応

- 1 利用者またはその家族から苦情は無かったが、引き続き「苦情解決マニュアル」に沿って迅速かつ適切に対応したい。
- 2 虐待と思われる事象は無かったが、引き続き、関係法令及び法人が定める「虐待防止・対応マニュアル」に基づき、迅速かつ適切に対応するとともに、日頃から職員の意識を高め虐待防止に努めたい。

苦情0、事故3、ヒアリハット2、虐待0、身体拘束0

VI 家族や地域

- 1 「カサブランカ便り」を毎月発行し、ご家庭へ情報提供するとともに、半年毎のモニタリング時にはそれぞれのご利用者の家庭や生活の様子について情報を共有した。
- 2 地域の方々との交流の機会は無かったが、当事業は島田市からの委託事業であるため、委託者である島田市環境課との連携を密にし、情報の共有を図った。

VII 実習生やボランティア

- 1 各関係機関からの福祉体験実習希望者は無かったが、今後も積極的に受け入れ、当事業への理解、協力を深める機会としていく。
- 2 特別支援学校生徒の実習については、学校の担任教師等と連絡をとりながら、将来の進路を決める大切な機会として捉え、受け入れた。
 - ・藤枝特別支援学校高等部2年生2名
- 3 利用を希望する一般からの実習生については、一般就職するための訓練の場として受け入れた。
 - ・在宅女性1名
- 4 ボランティアについては、希望者は無かったが、障害の理解や事業所理解を深めていただく機会として捉え、今後も受け入れていく。

VIII 環境整備（建築、改修、修繕等含む）

島田市から借用している設備であるが、利用者がその能力を発揮し作業が円滑にできるよう、出来る範囲で職場環境の改善をしていく。

今年度の実績は無かった。

IX 職員研修

- 1 法人のキャリアアップ制度に添った研修に積極的に参加した。
 - ・内部研修（新年度研修・誕生月研修）
 - ・外部研修（サビ管更新研修・経理決算研修・虐待防止研修・発達障害講演会）
- 2 研修で得た知識や情報は報告書を作成し、回覧によって職員間で共有した。

2019（令和元）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターコスモス

I 活動方針並びに課題

1 活動方針 法人が掲げる理念や事業計画、運営規定に沿って実施した。

2 課題

(1)中長期的なコスモス建設計画の作成

- ・建設計画を2024年度建て替え目標として、2022年補助金申請、2023年度着工という計画を立てた。法人代表として、法人関係者が島田市福祉課と財政課と4度話し合いを行った。島田市としては建物を50年使ってほしい長寿命化を希望。法人としては現在の場所に建て替える事の希望を伝えた。島田市との話し合いの結果、下記について返事を求められている。現在の土地を法人へ売却または有償定期借地権で貸与する（返却の際は更地で返す）

(2)防災訓練の強化

- ・年度初めに施設長と防火管理者で防災に関するマニュアルを再度確認。その上で、今年度の防災年間計画表を作成した。防災年間計画表に基づき、火災時や地震等の災害時、スムーズな避難が出来るように、様々な時間帯で、正規職員不在時も踏まえ、全職員が随時、指揮がとれるよう、訓練を実施した。予定していた静岡県地震防災センター見学は2020年3月末までリニューアル工事を実施しており、中止とした。

II ご利用者と職員の状況

1 ご利用者について

定員20名、現在22名の契約利用者（男13名、女9名）

開所日数253日（月平均21.08日）、延べ利用者人数5007人（1日平均19.7人）

年間利用率（98.95%）

2 職員について

管理者兼目標工賃達成指導員（正職）1名 サービス管理責任者（正職）1名

生活支援員（正職）1名、（パート）3名 職業指導員（パート）3名

事務員兼目標工賃達成指導員（パート）1名 （計10名）

III サービスとケアの内容

1 生産活動

利用者の障害特性に合った対応を心掛け、意思及び人格を尊重したサービスの提供に努めた。

2 健康管理

毎月の体重及び血圧測定、希望者による年2回の健康診断の実施を実施した。

3 各種行事

5月:民児協交流会（料理訓練） 6月:健康体操 7月:スポーツレクリエーション

9月:ブラッシング指導 11月:工場見学会・民児協交流会 12月:島田高校交流会

1月:成人の祝い

4 就労支援 就労継続支援A型事業所に1名体験

IV 防災並びに交通安全

1 消防計画に基づき、毎月火災と地震の避難訓練を交互に実施した。また、4月、12月

- に総合防災訓練を行った。事業所年間安否コール返信率88%であった。
- 2 法人主催の交通安全教室には参加出来なかったが、運行管理を行い、無事故だった。
 - 3 5月にスマートアシスト機能とドライブレコーダー付きの公用車を購入した。

V 苦情や虐待その他への対応

- 1 苦情0件。法人主催の苦情解決委員会へ出席し、苦情について学んだ。
- 2 事故1件。ご利用者への見守りを強化したことにより、改善された。
- 3 ヒヤリ9件。職員全員が危機意識を持ち、業務にあたる事を再確認した。
- 4 ①毎月虐待防止委員会を開催。
②セルフチェックを2月に実施
③12/5 お母様から息子様(利用者)への心理的虐待を確認し、島田市福祉課へ虐待通報。
- 5 ご利用者1名情緒不安定の際、両側から職員が両腕を押さえる事についてご家族と身体拘束同意書を交わした。

VI 家族や地域

- 1 ご家族の状況を理解し、保護者と良い関係の中でご利用者の支援を行うことが出来た。
- 2 年2回(4月・9月)家族会を開催し、業務内容の進捗状況やご利用者の利用状況等をお知らせするとともに、ご家族からの要望等を伺う場を提供した。
- 3 年2回第2地区民児協、島田高校学生と交流会を行い、交流を深めた。
市民セミナー講師として、地域住民に障害の理解を促した。又、ご利用者とともに島田市内の小学校の授業講師として赴き、障害の理解を促した。

VII 実習生やボランティア

- 1 各種学校の体験学習や福祉体験実習
島田市立看護専門学校18名 恵泉女学園5名 静岡大学教育学部1名
浜松学院大学1名 島田市島田第1中学校特別支援学級2年生2名
島田市立六合中学校2年2名
- 2 特別支援学校の実習生 藤枝特別支援学校高等部3年1名 1年1名
- 3 ボランティア 島田市第2地区民児協委員 作業補助ボランティア2名

VIII 環境整備

- 1 モーターが磨耗していた換気扇4箇所の交換工事を行った。
- 2 建物劣化の早期発見及び建物メンテナンスの一助となるよう、廊下とトイレの清掃を業者に依頼し、実施した。
- 3 作業室天井腐食破損部分11枚の張替工事を行った。
- 4 防災備品として、食料品の消費期限が切れた為、代替品を購入した。

IX 職員研修

- 1 合計35回の法人内部研修や外部が主催する研修に参加。職員のレベルアップに努めた。
- 2 職員の防災意識向上の為、静岡県防災センターへ見学に行く予定であったが、センターがリニューアル工事中であった為、断念した。

X その他

- 1 地域交流として、近隣の小学校島田市第2小学校の児童と交流できるよう、連絡調整を行ったが、結果出来なかった。来年度交流できるよう、引き続き調整を行う。
- 2 中長期的な建設計画に基づき、建設積立金資産 700万円を積立した。

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

法人が掲げる基本理念に沿い、事業計画及び運営規程に従って実施した。

2 課題

(1) 事業所業務の標準化

手引書の整備については、実践計画書に沿い、各作業の洗い出しから手順書案までを作成したが、完成までには至らなかった。

(2) ご利用者の能力や意向等を把握し、一人ひとりに応じたサービスの提供を行う。

試行するにあたり、知りたい情報が多種多様の中から絞り切れず、まとまりのつかない結果となった。能力の大まかな把握はできたが、サービスに生かすところまでは至らなかった。

両課題が達成できなかった原因は、計画を進捗させる過程において、日々の作業や事務処理等を優先させ、実行が後回しになり、徐々に遅延していったことにある。

ご利用者の満足度を高めるために課題として挙げたことが、職員の負担となり、結果も残らなかった。日々の業務の流れの中や具体的な行動スケジュールに落とし込むまでができていなかった結果であった。今後の計画立案の課題としたい。

II ご利用者と職員の状況

1 ご利用者 定員（30名）、登録 30名（男性19名、女性11名）

開所日数 255日、 延べ利用者数 7650人（1日平均30人）、 年間利用率 95.5%

2 職員について

管理者（正職）1名、サービス管理責任者（正職）1名、生活支援員（正職）1名・（パート）2名、職業指導員兼事務員（正職）1名、職業指導員（パート）5名
（男性1名、女性10名）

III サービスとケアの内容

1 生産活動

様々な作業種に挑戦する機会を増やし、能力向上への支援を行った。

「できる」作業が増えると共に、作業スピードも高まり、生産量が増加した。

2 訓練

訓練用の材料を用意し、能力に応じた作業訓練を行った。掃除時間には担当エリアごと職員が就き、丁寧に指導を行った。作業日報を毎日書く習慣を支援し、一日を振り返る機会を提供した。

3 相談及び援助

年2回のモニタリングの他、必要に応じて心身の状況を把握し、適切な助言、援助等行なった。また、市福祉課及び相談員と連携し協力体制を築いた。

4 各種行事

社会生活を営む上で必要な知識・常識・文化等を学ぶ機会を提供した。

年度当初に希望を聞き、準備・計画・実行・反省を利用者主体で行った。

創作体験旅行（手すきハガキ、ラタンの籠）、手作り運動会

5 就労支援

就労移行事業所への移行支援をした。本人及び関係機関で進捗状況を把握し、必要に応じて、訪問や相談を行っている。

6 健康管理

月1回の体重測定及び血圧測定、希望者による年2回の健康診断を実施した。
感染症予防のための手洗い指導（飲食前）、体温調節のための衣服の着脱の支援を行った。

7 全てのサービスは「事業計画」及び「個別支援計画」に基づいて行った。

IV 防災並びに交通安全

- 1 「消防計画書」に則り訓練を行い災害に備えた。「地震・風水害対応マニュアル」「災害時事業継続計画書」を整備し、職員に周知した。
- 2 毎日の敷地内自主点検や、月1回の防災パトロールにおいて、危険箇所をチェックした。
- 3 法人主催の防災訓練については安否確認メール返信を確実なものとし、災害に備えた。
- 4 公用車運用については運行記録簿に運転手名・行先・距離・整備・給油事項を記入し管理した。法定点検の他、任意での点検も定期的に行った。
- 5 法人主催の交通安全委員会に出席し、安全運転への意識を高めた。

V 苦情や虐待その他への対応

- 1 苦情 0件 ご家族からの要望等をいつでも歓迎する姿勢でいたい。
- 2 事故 0件 情報を分析し早めの対策を整えたことで防止に繋がった。
- 3 ヒヤリハット 3件 早期検討によりその後の発生はなかった。
- 4 虐待 0件 報告連絡体制、定期会議での「虐待防止・対応マニュアル」に沿った研修
法人主催の「虐待防止委員会」への参加、及び職員会議でセルフチェック
- 5 身体拘束 0件

VI 家族や地域

- 1 御家族との連絡を密にし、情報を共有することでご利用者への最適な支援を行った。
- 2 年2回「保護者連絡会」を開催し、事業の進捗状況を説明する他、意見交換の場とした。
- 3 町内会のイベントに協力し、地域住民と親睦を図った。地区民生児童委員との交流会では、施設の作業を共に行き、ご利用者を知っていただく機会とした。

VII 実習生やボランティア

- 1 島田市立看護専門学校の学生実習生13名を受け入れた。市内中学校の体験実習希望者はなかった。引き続き受け入れ態勢を整えたい。
- 2 藤枝特別支援学校2年生2名、吉田特別支援学校3年生1名を受け入れた。
3年生については、次年度の利用につながった。
- 3 ボランティア受け入れ体制を整えることはできなかったが、引続きの課題としたい。

VIII 環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

- 1 地域住民に愛される施設を目指し、開所前に施設回りの清掃を毎日行った。
- 2 改修後の細かい不具合（戸の立て付け、門扉の開閉具合、赤外線センサーの位置調整）を行った。

IX 職員研修

- 1 キャリアアップ要件の研修他、研修計画を作成し参加の機会を持った。
- 2 サービス提供指針の浸透を目指し、職員会議での読み合わせや、セルフチェックを行いご利用者の安心や満足につながるような支援を目指した。

X その他

- 1 牧ノ原やまばと学園の50周年記念行事に向けて実行委員会に参加し企画の一端を担った

2019（令和元）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターあさがお

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行いました。

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

牧ノ原やまばと学園の理念、サービス提供指針、並びに法令に則って、支援を提供した。

2 課題

(1) 新施設、移転新築に向けての準備と心構え。

①建設の進行状況等を毎月の職員会議で共有し、必要に応じて意見を聞き、関係資料の配布をして職員への周知を徹底して行った。3月にはパート職員も含めた全職員で今後のスケジュールについて確認し合うことができた。現あさがおより見える位置に建設したため、利用メンバーにも進行状況がわかり易く、より理解して頂くことができた。補助金の助成を受けて3月末に新施設が無事に完成した。

②地域の自治会長、ご近所、ボランティアさんにも建設についてお知らせをした。

(2) 新人職員の育成とチームワーク。

①6月、7月、11月、2月と新人のパート職員を雇用した。福祉の仕事が初めて、60代の職員が3名であったが、業務に意欲的に取り組んでもらうことができた。

②施設長と経験年数のある職員が育成に当たった。新人職員も少しずつ業務に慣れてきた様子がみられる。今後も継続して育成に努めたい。

③日々の業務内容と他の職員の動きがわかるようにシフト表を毎日掲示し、連絡事項等も記入し共有した。一週間の動きもわかるように週間シフト表も作成し共有した。

(3) 専門性の向上

①職員個々の経験年数や現状に合わせた研修への出席ができるようにできるかぎり配慮した。パート職員、シニア職員の研修参加への意欲を引き出すことに苦慮した。

②管理者が建設関係の業務や、日々の業務に追われることが多く、制度や運営についての学びの時間を職員ともつことができなかつた。課題として次年度も取り組みたい。

II ご利用者と職員の状況

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | ご利用者 | 定員（20名）、登録21名（男性14名・女性7名） |
| | 退所者 | 6月：I. Rさん（身体・男性）12月：I. Hさん（精神・女性） |
| | 新規入所者 | 4月：N. Sさん（知的・女性） 9月：I. Nさん（知的・女性） |
| | その他 | ご利用者の入院が相次いだ。4名入院、内1名は2回、1名退所。
1名長期欠席。入院による利用率の低下が多くあった。 |
| 2 | 職員 | 管理者・生活支援員兼務1名 サービス管理責任者1名
生活支援員1名（正規職員）事務・出納職員1名（準職員）
職業指導員（準職員1名兼務・パートタイマー7名）
退職者2名、新規採用者5名。新人職員育成に努めた。 |

III サービスとケアの内容

- 1 必要に応じて関係機関と連携してご利用者により良い支援が提供できるように努めた。
- 2 作業工程を分けて、より個人に合った作業を提供できるように努めた。
- 3 昨年度に引き続き、受注売上が400万円に達することができ、平均工賃が向上した。
- 4 毎月十分な計画を立てて行事を実施した。ご利用者の一番の楽しみである一泊旅行も実

施することができた。

- 5 職業訓練制度を利用して1名が市内の介護事業所に就職できた。定着支援に努めた。
- 6 月1回の体重・血圧測定、及び記録。希望者による年2回の健康診断を実施した
施設内の清掃や、共有物の清拭、消毒液の設置等衛生管理、マスクの着用等、通常よりも感染症予防に努めた。
- 7 全てのサービス提供は、「個別支援計画」に基づいて行った。

IV 防災並びに交通安全

- 1 年間を通して、火災及び災害もなく安全に事業を実施、業務を遂行することができた。
- 2 毎月の防災訓練の実施、及び防災についての学びの機会を設け、年2回の消防設備点検を実施した。年度末には消防署への通報訓練を実施した。
- 3 避難経路に当たる非常口確保の為、常に整理整頓に努めた。
- 4 公用車の運行については、無事故で安全に運行できた。運行に関する苦情等もなかった。

V 苦情や虐待その他への対応など

- 1 苦情は無し。
- 2 事故1件。搬出の際、台車で窓ガラスを破損。怪我人は無し。
- 3 ヒヤリハット2件。年間通して大きな怪我や事故は無かった。
- 4 虐待は無し。虐待防止委員会への出席、職員会議等で情報共有し虐待防止に努めた。
- 5 身体拘束は無し。

VI 家族や地域

- 1 家族や生活の状況を理解、確認し必要に応じて関係機関と連携してより良い関係作りに努めた。行事予定を通して職員状況や新規ご利用者等の情報もお伝えした。
- 2 年2回「保護者連絡会」を実施。移転新築にかかる3回目の連絡会は中止。
- 3 初倉地区の民生委員との交流会や地域のお祭りへの参加によって地域交流を図った。
また、施設建設についての情報を地域の回覧板を利用して地域への周知を図った。

VII 実習生やボランティア

- 1 各種学校等の体験学習や福祉体験実習についての依頼はなかった。
- 2 吉田特別支援学校3名の実習生を受け入れ、内1名は次年度からの利用につながった。
- 3 2個人、2団体により定期的にボランティアが訪れてくださり事業を支えて頂いた。

VIII 環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

- 1 本部の指示と協力、理事会の承認を得て、スケジュール通りに建設が進み3月末に本体工事が完了した。建設には施設整備補助金44,951,000円と静岡県共同募金会当年度機器整備事業の助成金1,672,000円を頂いた。建設費は103,866,501円（外構等含む）延床面積は298.12㎡。設計：こころ木造建築研究所様 施工：株式会社小桜建設工業様
- 2 倉庫内の不用品の整理、防災用品の点検・購入を実施した。
- 3 作業用機器の点検、修理の実施をし適正な管理に努めた。

IX 職員研修

- 1 中止になった研修もあり全職員が年間1回以上の研修に参加する事ができなかった。
- 2 職員会議で共有できない研修報告があった。できなかったものは次年度共有したい。
- 3 短時間パート職員の増と建設に関わる業務が増えたことで予定通りには進まなかった。
- 4 パート職員2名が法人主催の「介護職員初任者研修」を受講し修了証を獲得。事業所として受講料を2万円補助した。
- 5 「障害福祉サービスを知る」をテーマに浜松市にある事業所「だんだん」「くるみつくす」袋井市「いぶき」の見学を事業所独自の視察研修として実施した。7名が参加し、それぞれの事業所の特徴や多機能サービスの内容を知ることができ、良い研修となった。

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

法人が掲げる理念や事業計画、運営規程に従って実施した。

2 課題

- (1) ご利用者の高齢化については、ご本人や保護者の意向を尊重し、市福祉課や高齢者事業所等と連携をとり、安心して生活できる見通しを立て進めていった。

秋に行われたボウリング行事では、外出先の食堂で、高齢の利用者が寿司飯を喉に詰まらせ、救急車要請をした。病院での検査の結果、異常もなく、その後のボウリング大会に参加した。大事に至らなかったのは、職員間の連携の結果であったと思う。高齢者事業所との連携を一層強める必要があると感じている。

- (2) 将来の生活介護事業所の併設への取組みは、特段の進展はなかった。
(3) 地域との交流については、ふれあいで隣接する地区へ向けての交流会を開催し、地域住民より好感触を得た。次年度も引き続き開催していく。

II ご利用者と職員の状況

1 利用者について

希望の家 利用者 定員 20名 登録利用者 17名 男性10名、女性7名
ふれあい 利用者 定員 20名 登録利用者 15名 男性12名、女性3名
年間開所日数 253日 延利用者数 7,495人 利用率 90.3%

2月1日付でふれあいの利用者1名が、身体障害者入所施設へ移行した。また、2月1日付でふれあいの利用者1名が、希望の家へ移行した。3月1日付で、希望の家の利用者1名が、高齢者の事業所へ移行した。

2 職員について

希望の家8名、ふれあい6名の計14名で支援を行った。

(内訳) 施設長(兼務)1名、サービス管理責任者(兼務)1名、主任生活支援員1名、生活支援員5名、職業指導員6名

労災事故が1件あった。(利用者に殴られ、左頬打撲の診断)

III サービスとケアの内容

- 1 生産活動については、希望の家ふれあいで共通する1社の下請け作業の受注が減ったこともあり、企業からの下請け作業をそれぞれで1社増やし工賃の向上に努めた。
- 2 ご利用者、保護者からの相談や援助に対しては、法人内外の相談員や島田市福祉課担当者の協力を得ながら、必要に応じケア会議を開催し取り組んだ。
- 3 ご利用者の体調や健康管理については、保護者とともに共有しながら進められた。インフルエンザの流行時期に感染する方が数名出た。
- 4 年間開所日は253日で、日帰り外出・クリスマス会等、年間行事予定はほぼ滞りなく進められた。主従関係にある2施設の利用者の交流を図るため、春に川根町家山でグラウンドゴルフ、秋に藤枝ボウルにてボウリング大会を開催した。希望の家では、3月に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外出行事を取りやめた。

IV 防災並びに交通安全

- 1 6月と11月に消防署職員の協力による総合防災訓練を実施した。また、毎月それぞれの事業所での避難訓練も実施した。5月には、合同で起震車体験を行った。
- 2 島田警察署の交通指導員による交通指導訓練を年2回それぞれの事業所で行った。実際の信号機を使つての現地訓練も行い、ご利用者の交通マナーの向上に努めた。希望の家は、交通安全協会より、7月に交通安全功労団体の表彰を受けた。

V 苦情や虐待その他への対応

- 1 苦情 苦情はなかった。法人の苦情解決委員会に出席し研修を行った。
- 2 事故 事故は10件あり、内容は、転倒・窒息・利用者同士のトラブル・自動車の自損事故等であった。事故防止マニュアルを職員会議にて読み合わせ、事故防止に取組み、業務の改善も図った。法人の事故防止委員会に出席し研修を行った。
- 3 ヒヤリ ヒヤリは3件あった。
- 4 虐待 虐待はなかった。年2回虐待防止委員会を開催し、チェックリストに基づく自己評価や職員会議にてマニュアルの読み合わせ等、意思統一を図った。
- 5 身体拘束 身体拘束はなかった。

VI 家族や地域

- 1 隔月にそれぞれの事業所で保護者会が開催され、施設長・主任が出席し、事業の計画内容の報告や利用者の様子、保護者からの要望等を伺い、情報の共有を行った。年間を通して、保護者が参加する行事が数回あり、職員との交流も図っている。
- 2 地域で実施するバザーや市の福祉大会への参加、また同地区内での福祉施設との交流行事へ積極的に参加した。

VII 実習生やボランティア

- 1 今年度6名の実習生の受入れを行った。その内2名の方の利用につなげることができた。特別支援学校の説明会等に参加し、事業所のアピールを行った。
- 2 年間を通して奉仕団体や地域のボランティアの受入れを行った。ボランティアに来てくださる方の自主性を重んじ受入れている。

VIII 環境整備

- 1 それぞれの事業所で環境整備に努めた。希望の家では、隣接する大きな樹木(島田市の管轄)が浄化槽にまで根が伸びてしまったため、依頼して伐採を行っていただいた。
- 2 ふれあいパソコン1台の更新を行った。老朽化した備品(食堂のテーブル)の更新を行った。両事業所ともに、大きな修繕はなかった。

IX 職員研修

- 1 法人のキャリアアップ研修、誕生月研修、県や市の社協の研修に計画的に参加していただき、スキルアップに努めた。
- 2 志太榛原地区のヤングキャリアスタッフミーティングにて、希望の家の主任が発表者の役割を担った。また、新年度研修では、ふれあいから100円梅干の取組みについての発表を行った。
- 3 引続きサービス提供指針を浸透させるため、職員会議にて読み合わせを行った。

X その他

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

法人が掲げる基本理念に沿い、事業計画、運営規定に従って事業を実施した。

2 課題

(1) ご利用者の支援について

法人内部研修に参加し、情報の共有を職員会議で話し合いをした。しかし統一した支援が出来ないところもあった。次年度も課題としてご利用者へよりよい支援を目指す。

(2) 中、長期目標

中期目標・・・自主製品、下請作業 年間1千万円の就労事業収入を目指す。

長期目標・・・事業所新築

就労支援収入は、年度末感染予防の為にイベントが中止になり達成できなかった。

事業所新築の為に、経費節減に努め、積立預金もできた。

(3) 工賃アップ

就労支援事業も経費節減に努めた為、収入は減少したが昨年度並みの工賃をご利用者に支給できた。

II ご利用者と職員の状況

1 ご利用者

定員 20 名、登録 21 名（男性 14 名、女性 7 名）

開所日 253 日（月平均 21.1 日）延べ利用者数 4,815 人（月平均 19 名）

2 職員

管理者（嘱託） 1 名 サービス管理責任者（正職） 1 名

職業指導員（正職） 1 名 （パート） 2 名 （嘱託） 1 名

生活支援員（正職） 1 名 （準職） 1 名 計 8 名

III サービスとケアの内容

1 相談及び援助

年2回のモニタリング、保護者会、必要に応じて個々に面談を行い、ご家族及び関係機関と連携し支援を行った。

3 生産活動

新規下請作業先を1社増やし合計4社となった。新しい作業にチャレンジする機会を与えた。自主製品は2月からのイベント中止に伴い、ご利用者が参加する機会が減少した。

3 訓練

作業、行事等を通して日常生活に必要な知識を身につけるよう支援した。お昼休みを利用して簡単な算数のドリルをするご利用者が増えた。

4 就労支援

希望者がいなかったので行わなかった。

5 各種行事

年間行事計画に沿って目的を定めて行った。

クラブ活動（カルチャー、創作、調理）は2年目に入り、ご利用者が計画を立て実施した。

6 健康管理

毎月「健康の日」を設け、体重、血圧測定を行いご家族にも報告した。希望者による健康診断、インフルエンザの予防接種を実施した。3名のインフルエンザ罹患者がでたが、それ以上に広がることはなかった。歯科検診も例年通り実施した。

新型コロナウイルス感染予防に、事業所に入った時、手指消毒、マスク着用をお願いした。その為か風邪をひいて欠席するご利用者が少なかった。

7 すべてのサービスは「個別支援計画」に基づいて行った。

IV 防災並びに交通安全

1 防災対応マニュアル、消防計画に則り毎月防災訓練を実施した。市防災課職員により消火器の使い方を学んだ。法人防災訓練では、携帯電話による安否コール訓練を行った。返信率97%であった。牧之原市ハザードマップを取り寄せ、危険な場所の確認をした。

2 公用車の運転には十分注意し、公用車運転記録簿を作成した。

3 交通指導員による「交通安全教室」を実施した。特に自転車通所者の指導を行った。

V 苦情や虐待その他への対応

1 苦情0件。法人主催の苦情解決委員会に参加し、苦情の状況を学び、施設運営に生かした。

2 事故9件。大きな事故ではないが、報告書を回覧し、職員一同で未然に防ぐよう話し合った。3か月後に振り返りも行い、改善後の評価を行った。

3 ヒヤリ2件

4 虐待0件

5 身体拘束0件

VI 家族や地域

1 年2回「保護者会」を開き事業所の様子や意見交換を行った。「ワークセンターやまばとだより」も継続して発行していく。

2 地域のイベントに参加し、ご利用者と地域の方との交流を図った。坂部小3年生との交流も継続して行った。

VII 実習生やボランティア

今年度は実習生、ボランティアの受け入れはなかった。

支援学校実習生は新規利用に繋げるよう積極的に受け入れる。

VIII 環境整備

建物は老朽化しているが、修繕・改修は行わなかった。

ご利用者が怪我をしないように建物内の整理整頓に心がけた。

IX 職員研修

法人内部研修には積極的に参加し、情報を共有した。

出納職員育成の為、外部会計研修に参加し学んだ。

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

法人が掲げる基本理念に沿って事業を実施した。

2 課題

(1) 支援の多様化

複雑化、多様化していくニーズに応えるため、関係者と連絡調整をしながらケア会議を重ね、本人が望む生活や働き方ができるよう努めた。

(2) 効率の良い作業工程

職員の作業エリアを定期的に変更した結果、作業全体を把握できるようになった。

レイアウトの変更やパーテーションの導入をし、利用者の特性を生かした作業環境の提供ができた。ご利用者が集中して作業を行い効率が上がった結果、新規受託作業も含め開所以来はじめて平均工賃が10,000円を上回り、ご利用者の満足につながった。

自主製品のパンの製造についてはご利用者主導となるように支援を行い定着したが、

1月に主となっていたご利用者がA型事業所に異動したことや、3月からの新型コロナウイルス感染対策として3月中旬より休止した。

(3) あつまりーナ内の事業所との協力

送迎、行事、環境整備やトイレ掃除等、あつまりーナ会議にて検討し協力体制を築くことができた。今後も引き続き課題としたい。

II 利用者と職員の状況

1 利用者

定員 22名、契約者 25人（男性 17名、女性 8名）

開所日数 253日、延べ利用者数 5018人、1日平均利用者数 19.8人

新規利用者 なし、退所者 1人（A型へ移行）、長期欠席者 1人 利用率 90.2%

2 職員

施設長 1名（正職）、サービス管理責任者 1名（正職）、生活支援員 1名（正職）、
職業指導員 4名（パート）、事務員 1名（正職） 合計 8名

III サービスとケアの内容について

1 「就労継続支援B型事業」の目的、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことが出来る様、就労の機会やその他の活動の機会を通じて、知識及び能力の向上を目指した支援を行った。

2 全てのサービスは、面談及びモニタリングに基づいて、当事業所のサービス管理責任者が作成した「個別支援計画」によって行った。

3 (1) 生産活動について

・下請作業

新規受注のエアコンの羽付け、DVD解体の作業、古着のタグ付け作業は定着した。

洗濯用品組立等、日用品雑貨袋詰め等、ギフト箱詰め包装、たれの袋詰め等は昨年同様順調だった。作業種が増え、様々な工程に携わる機会が提供されたことにより、利用者の能力が高まった。

・自主製品作業

パン製造販売は、町保育園及び放課後児童クラブに定期的に納品した。

また、週2回（水・金）店頭販売や地域の会社等の予約注文を受け配達をした。

(2) その他の活動について

生産活動に支障のない範囲で季節の催し物やレクリエーション、工場見学などを実施した。クラブ活動（スイーツクラブ、ハイキングクラブ、ウォーキングクラブ）を行ない仲間との交流を図ると共に、日常生活に必要な体力を培った。クリスマス会は「あつまリーナ」合同で実施した。

IV 防災並びに交通安全

あつまリーナの防災計画及び地震避難計画を基にあつまリーナの事業所全体で毎月防災訓練を実施した。津波対応マニュアルを作成し津波想定訓練時には隣接の健康福祉センター「はあとふる」2階に避難した。また、送迎出発前に車の点検をし安全運行に努め、毎回の運行記録を記入し運転業務の管理をした。

V 苦情や虐待その他への対応

苦情	事故（車両）	ヒヤリ（投棄）	虐待	身体拘束
0	1	1	0	0

虐待及び身体拘束と思われる事例は無かったが毎月虐待セルフチェックを行い、あつまリーナ虐待会議にて困難事例の対応について話し合い、支援の方向性を共有した。

VI 家族や地域

1 家族

施設便り（さくらだより）を毎月発行し、ご家庭に配布した。保護者会を年2回開催し、ご利用者の様子や作業状況等を報告し、保護者の方と意見交換ができるように努めた。

2 地域

吉田町福祉推進委員会等、関係機関との連携し地域福祉の推進に努め、吉田特別支援学校文化祭や吉田町ふれあい広場等に参加しパンの販売を通じ地域との交流を図った。

VII 実習生やボランティア

1 実習生

職場体験実習：吉田中学校 4名

職場実習：吉田特別支援学校 4名、清流館高校 6名

2 ボランティア

ふれあい広場ではご家族がボランティアとして参加していただき、クリスマス会では「うたごえどれみ」さん（吉田町コーラスグループ）が歌を披露してくださいました。

VIII 環境整備

車椅子のご利用者や来客が安心して通行できるように、玄関にスロープを設置した。敷地内園庭の草刈り及び施設内清掃作業を外部委託し行った。

IX 職員研修

法人キャリアパス制度により各々の等級に課せられた法人内研修に積極的に参加した。外部研修については、資格取得のための研修に参加した。その他、職員会議の場でアセスメント手法や障害特性について学んだ。

X その他 なし

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

法人が掲げる理念に沿って、事業計画は運営規程に従って実施した。

2 課題（評価）

ご利用者2名が体調や障碍の特性に合った他事業所へ移行された。又1名のご利用者様が家族による虐待が疑われ6回通報し対応した。

(1)個別支援の充実は、コロナ感染対策の関係で活動を自粛する状況で外出の活動メニューを後半提供することが出来なかったが、室内活動は密集しないよう配慮しながら工夫を凝らし提供した。今後も様子を見ながら支援メニューや内容を検討する。

(2)年度初めから負担金の支払いを口座振替に変更し保護者及び事業所の負担を軽減した。

(3)研修及び勉強会は、全職員が研修に参加し資質向上を図った。今後も障碍の多様化に伴い(高齢化・合併)継続して支援スキルを身につける。

(4)環境整備は、常に整理整頓に努めスペースを有効活用し施設全体の環境整備や安全対策に努め、全職員が協力しご利用者支援に努めた。(スヌーズレン用電飾を個室に設置)

II 利用者と職員の状況

1 利用者について（2020年3月末日現在）

(1)定員20名、現員20名、(男性12名、女性8名)

(2)開所日数253日、総利用者数4498名、利用率88.9%、1日平均17.8名

2 職員について（2020年3月末日現在）

施設長生活支援員（兼務）1名、サービス管理責任者1名、正職員1名、準職員1名
パート職員9名、パート看護師1名、事務員1名（兼務）、合計15名の支援職員等で事業を実施する。

III サービスとケアの内容

1 個別支援計画について

各利用者、保護者との面談のアセスメントを中心に作成した個別支援サービス計画をもとに実施し、集団をベースにしながらも個別対応も重視し継続的な支援を行った。

2 健康管理について

健康調査票をもとに家庭と密に連絡をとり、気になる体調については伝え早めの通院等をお願いした。健康診断、歯科検診は希望者を実施、また毎月体重測定を行い肥満対応や体調管理をし、その他衛生面での支援を行った。

感染症やアレルギー対策の為、マスクの着用、手洗い、うがい等を強化し感染防止や症状の軽減に努めた。

3 活動・教養娯楽について

通常の活動は午前散歩、午後作業を基本として行った。

・散歩は、ご利用者の体力や特性に配慮し長距離、中距離、短距離、個別グループに分かれ体力維持に取り組んだ。(夏場の暑さ対策にも十分配慮し実施した)

・作業は、手工芸(ビーズ、刺し子、縫製作業、さおり織り、ミシン、紙漉き)等の創作活動を中心に行い、今回新たに缶作業を取り入れ作業内容の幅を広げた。

・行事は、年間で計画を立て、利用者の要望を含めた社会体験外出や季節ごとの行事を取

- り入れて行った。昼食やおやつ作り、レクダンス、音楽活動、書道教室など実施した。
- ・その他、小グループでの外出（プール、温泉、バス外出、買い物、お楽しみ外食等）を実施、後半はコロナ感染対策の為自粛した。11月には保護者を含めた清水への日帰り旅行実施。今後も個別支援計画を充実させ、出来る限り1人ひとりのニーズにあった活動を取り入れていきたい。

IV 防災並びに交通安全

あつまりーナの消防計画及び地震防災計画をもとに施設全体で毎月防災訓練を実施した。

- ・地震・火災等の発生時、迅速かつ安全に利用者が避難できるように訓練を行った。
- ・津波想定訓練には隣の「はあとふる」2階に避難した。
- ・交通安全については、出発前、車の点検を実施し、安全運転に心掛けた。

V 苦情や虐待その他への対応

リスクマネジメントは情報を共有し検証、再発防止に努めた。施設内による虐待及び身体拘束と思われる事例は無かった。毎月虐待セルフチェックを行い、あつまりーナ会議にて困難事例の対応について確認、情報共有を行った。また、問題行動のあるご利用者に関しても行政に報告し情報を共有した。

苦情	事故	ヒヤリ	虐待	身体拘束
0件	15件	28件	0件	0件

VI 家族や地域

連絡帳で事業所と家庭の様子を日々記入して情報を共有した。毎月「マーガレットたより」を発行し全ご利用者・関係者に配布した。

保護者会は年2回開催した（年度末は感染症の関係で中止し書面をもって対応）ご家族の意見や要望をお聞きし事業所からの連絡事項を伝えた。

吉田町「ふれあい広場」また吉田特別支援学校の「もえぎまつり」に参加し、利用者作品の展示販売を行ない地域の方々とのコミュニケーションの場を設けた。

VII 実習生やボランティア

実習生については、地元の中学校生徒5/14～16（吉田中学2年3名）高等学校の学生10/15～16（清流館高校1年3名・吉田特別支援学校1年1名）他（済生会桜の園3名・法人内事業所1名）の職場体験実習、介護実習を受け入れた。ボランティアについてはさおり織り糸掛け、紙漉き、書道教室等ご利用者支援をしていただき嬉しく思う。

VIII 環境整備

施設整備等については、支援室内の個室に電飾を設置しスノーズレンによる支援ができるよう準備、また静養及びパニック時にも使用できるようにして安全対策を図る。また吉田町福祉課に相談と依頼をし西側入り口の車寄せの段差にスロープを設置、保護者及び職員の負担の軽減を図り経年劣化し破損した机1台椅子1脚は修理を行った。また活動終了後は清掃、整理整頓を心がけた。

IX 職員研修

キャリアパス制度が始まり法人内研修、スキルアップの為の外部研修に積極的に参加。又職員会議の中で勉強会をした。

I 活動方針並びに課題

- 1 活動方針について
法人が掲げる基本理念に沿って事業を実施した。
- 2 課題
利用に際してのルール（町福祉課に登録申請し許可を得る、重要事項説明書による説明と同意）を定め、ご利用者・事業者双方が安心して活動できる様に講じた。
関係機関やご家族と定期的に連絡・報告を行うことでご利用者の状況を把握し、支援の課題解決に向けて務めた。

II 利用者と職員の状況

- 1 利用者
利用者 10人 開所日数 238日、 延べ利用者数 1530人（1日平均6.4人）
- 2 職員
施設長（兼務）1名、支援員（正職 精神保健福祉士）1名、支援員（パート）2名

III サービスとケアの内容

- 1 開所日 月曜日～金曜日 9:00～15:30
- 2 障がいの特性や置かれている環境等の情報を把握しながら、利用者自らが行動やその対応を工夫することで、日常生活を送ることができるように支援した。

ストレッチ、脳トレ（記憶力ゲーム・文字なぞり・計算）、運動（散歩・卓球・テニス・草取り・散歩・ヨガ）雑談、グループワーク（障がいや病気のこと、他人との関わり方、困った時の対応の仕方等）

個人面談を適時行い、本人の気持ちを伺う機会を持った。

ランチ作りを月2回程度（実費負担）ご利用者の希望によるメニューづくり、役割分担して調理を行い、楽しく昼食の時間を過ごした。

家で引きこもっていた方々が人と接し、悩みごとを話し合うようになり、外の世界にむけて仕事を探して生活しようと前向きになっていった。「行く場所」が安心できる場所である、そこに行けば誰かが居て話を聞いてくれる、そのような場所を今後も提供していきたい。

IV 防災並びに交通安全

毎月、あつまり一ナ内の三施設と合同で防災訓練を実施し、火災・地震等の発生時、迅速且つ安全に避難できる様支援をした。

V 苦情や虐待その他への対応

苦情	事故(リストカット)	ヒヤリ	虐待	身体拘束
0	1	0	0	0

虐待及び身体拘束と思われる事例はなかったが、毎月虐待セルフチェックを行い、あつまリーナ虐待会議にて困難事例の対応について話し合い、支援の方向性を共有した。

VI 家族や地域

毎月「レタスクラブだより」をご家族や関係機関に配布し、活動内容を伝えた。
定期的な海岸清掃、及び河川土手の清掃を行った。
吉田町へご利用者の状況等を毎月情報提供した。

VII 実習生やボランティア

随時ボランティアの受け入れを行った。
話し相手ボランティア 3名

VIII 環境整備 (建築、改修、修繕等を含む)

室内のレイアウト変更等、落ち着いた環境空間となるよう工夫を行った。
菜園整備を行い、季節の花や野菜を育てた。

IX 職員研修

法人キャリアパス制度により各々の等級に課せられた法人内研修に参加した。
職員会議では事例検討会を行い、研修の場とした。

X その他

なし

2019(令和元)年度事業報告

相談支援事業所
生活支援センターやまぼと

I 活動指針並びに課題

1 活動方針について

- ・事業所内で定期的にケースを共有し、担当者だけでなくチームでより良い支援や事業所連携ができるようになってきた。
- ・最新のホームページ更新はできなかった。
- ・法人内外にスーパーバイザーを依頼し、事例検討等で支援の視点と相談員としての姿勢を共有する機会を持つことができた。
- ・行政や関係機関と協働して、適切な対応に努めた。
- ・相談支援事業に関しては定期的に行政と協力し、計画・評価・見直しを行っている。

2 課題について

- ・相談員退職に伴い人材確保・育成に時間を費やし、業務運営が難しい状況が続いた。
- ・書類整備について12月～取り組み、解消しつつある状況である。
- ・適正業務、体制整備について事業所内で協議を重ね業務改善を図った。
- ・特定事業所加算Ⅱ取得に向けた人材確保について、法人と協議した。
- ・権利擁護について、ケースを通じて法人内外に意識的に関わりを持った。

II ご利用者と職員の状況

1 委託相談実人数

市町名	身体障害	重心障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳	その他	(内・児童)	合計
牧之原	20	3	42	26	6	3	2	4	102
島田	4	2	81	5	5	0	0	10	97
合計	24	5	123	31	11	3	0	22	199

2 計画相談実人数（サービス等利用計画作成実人数）

牧之原市	吉田町	島田市	静岡市	盛岡市	伊豆市	合計
112	86	165	1	1	1	366

3 職員

(1) 委託相談支援事業

牧之原市：2人工4名体制(0.9・0.6・0.3・0.2) 10/1～正規職員入職(0.9・0.8・0.2・0.1)

島田市：1.25人工2名体制。～6/30 (0.7・0.55)パート職員退職

7/1～(0.75・0.5)法人内事業所兼務職員入職

(2) 計画相談支援事業

相談員6名体制。正職～9/30 2名 10/1～3名(専任)、パート2名(兼務)

正職2名(兼務)

内、委託計画兼務職員 6/30 パート職員退職

(3) その他 施設長1名(兼務) 事務準職員1名

III サービスとケアの内容

1 委託相談

(1) 牧之原市

- ・基幹相談支援センターの機能を整理しセンター設置に向けて協議の場に参加協力した。
- ・成年後見個別支援会議に参加し、関係機関と複数のケース共有を行い支援のチームの幅が

広がり連携しやすくなった。

- ・包括支援センターと隣接し、ケース支援の協力連携体制を図ることができた。

(2) 島田市

- ・自立支援協議会、その他部会に参加し、官民協働を意識した運営・取り組みを行った。
- ・基幹型相談支援センター・地域生活拠点 PJ に参加し、設置に向けて理解を深めた。
- ・新規相談支援事業の人材育成の為、委託から計画へケースを繋ぎ、同行助言を行った。

2 計画相談

- ・ケース対応については、朝礼時や定例会で適時共有や検討を行った。
- ・新規計画については、再開ケース・卒業生の作成を行った。
- ・ケース検討等で、基本相談業務を意識して他職種へ働きかけを行ってきた。一方、相談支援専門員としての専門性を理解して伝える力が不十分だった。
- ・計画相談事業特定事業所加算Ⅱ取得のために24時間体制について検討し来年につなげた。

IV 防災並びに交通安全

台風19号に伴い、各市町要支援者の名簿作成・対応マニュアルについて検討を行った。交通ルールについて事業所内で再確認をし、厳守することを共有した。

V 苦情や虐待その他への対応

(1) 苦情4件 (2) 事故14件 (3) ヒヤリハット7件 (4) 虐待0件 (5) 身体拘束0件

事故件数が増えた要因として、業務量過多によりスケジュール管理が難しくなった事が考えられた。苦情や事故については、法人や各機関と連携をとり適切に対応した。

虐待・権利擁護についての取り組みは、市町協議会での働きかけや、ネットワーク等に参加・発言をしている。

VI 家族や地域

日頃から家族、民生委員、各関係機関等と情報共有・連携をし、住民などへの啓発活動を行っている。相談支援事業を通して、ご本人中心支援をご家族や地域の事業所・民生委員等とともに取り組んでいる。

VII 実習生やボランティア

社会福祉士育成の必要性から、社会福祉士実習指導者研修を1名受講した。

VIII 環境整備

エアコン故障の為、買い替え、設置をした。

パソコン(Windows7)10台の買い替えを行い、業務をスムーズに行えるようにした。

ドライブレコーダーについては、上記を優先し購入を見送った。

計画相談人員確保ができなかったため、携帯電話購入・待機手当を見送った。

IX 職員研修について

年間計画・本年目標に基づき、主に必須とする研修に参加をした。

今後の相談支援事業(基幹型相談支援センター・地域生活拠点)を想定して県外研修に参加した。相談支援専門員の専門性や質の向上に繋がる研修参加を増やしていきたい。

X その他

業務の効率化を含めた体制整備の協議の場を定期的に持った。

2019(令和元)年度事業報告

介護老人福祉施設

短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護）

特別養護老人ホーム 聖ルカホーム

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

『ご利用者、ご家族、職員に「笑顔の花を咲かせたい」』を目標に、職員一人ひとりがどのようにすべきかを考え運営してきた。

2 課題

- (1) ご利用者がその方らしく暮らせるよう日々のかかわりの中から“何を望まれているのか”を考え支援できた。ご家族には、面会時及び電話等で現状の報告を行いケア方針についてその都度意向を伺う事ができた。
- (2) 職員の専門性を高めるための研修への参加を計画的に行い、報告書の提出や研修報告会などを実施することで、他の職員への周知もできた。
- (3) 職員の確保については、人材派遣や紹介を活用した。また、実習を受けたことにより2020年度に新卒者の採用ができた。職員の定着のために職場全体で職員育成を行った。面談の機会を増やし、一人ひとりの職員と話し合う機会を持つことができた。
- (4) 地域貢献事業として、外出の機会などが少ない地域の高齢の方への支援と送迎サービスを予定どおり行うことが出来た。
- (5) 法令順守のために、介護保険法等の勉強会を開催し主任以上の職員と共通理解に努めた。加算要件などについても毎月チェックを行い適切な報酬請求ができた。

II 利用者と職員の状況

1 利用者について（2020年3月31日現在）

(1) 長期入所（定員70名）

現員	69名（男性13、女性56）	平均介護度	3.69
最年長	105歳	年間稼働率	98.02%
最年少	65歳	新規入居者	26名
平均年齢	87.96歳	退去者	27名

(2) 短期入所（定員10名）

延利用者数	年間平均稼働率	平均介護度
3,084人	84.29%	2.1

2 職員について

()内は、正職員の再掲

施設長	1名(1)・他事業所兼務	管理栄養士	1名(1)・他施設兼務
事務長	1名(1)・高齢者事業部	事務員	6名(2)・他事業所兼務
相談員・ケアマネ	4名(2)	宿直員	3名
介護員	47名(32)	洗濯清掃員	3名
介護補助員	3名	嘱託医師	1名
看護師	4名(1)	産業医	1名

就職者12名（正職3・パート9）、退職者12名（正職5・パート7）

III サービスとケアの内容

歯科医師や歯科衛生士と連携し口腔ケアの充実に取り組み、口腔内環境が改善された。褥瘡予防についても計画書を作成し予防に取り組んだ。ターミナル期のケアの充実とご家族の意向を踏まえ、最期の時を大切に過ごせるような支援が行えた。

IV 防災並びに交通安全

- 1 BCPを含む防災マニュアルの見直しと、より実践的な防災訓練が出来るよう見直しに着手したものの完成には至らなかった。
- 2 交通安全については安全運転を心がけ無事故で1年間過ごせた。

V 苦情や虐待その他への対応

苦情	3件	連絡不足による苦情、ケアへの苦情
事故	247件	転倒転落、外傷、薬関係、誤嚥、他傷他害、その他
ヒヤリハット	76件	転倒転落、外傷、薬関係、所在不明、誤飲、その他
虐待	0件	
身体拘束	1件	胃ろうチューブの自己抜去が続き夜間のみつなぎ服着用。 3要件をみたし、家族への説明と同意あり。

苦情は、迅速に対応する事で理解が得られた。事故とヒヤリハット区分について、統一したルールが浸透。対策会議を多職種参加で開催し原因の調査と予防策を検討できた。虐待及び不適切なケアの防止に関しては、研修会を実施。職員の自己チェックを行い、結果を職員へ報告し啓発に努めた。

VI 家族や地域

- 1 毎月、聖ルカだよりを発行し日常の様子を報告した。担当職員からのコメントを必ず記載しご家族と職員のコミュニケーションの役割りを果たすところが出来ている。事故、ヒヤリハット、苦情についても報告している。情報発信を積極的に行う事で施設への理解をいただいている。
- 2 市内の幼稚園児や小中学校との交流、高齢の方々の集いの場と介護予防を目的とした“わいわい話そう会”に加え“書道教室”を開催いたしました。

VII 実習生やボランティア

- 1 中学校（1校）・高等学校（1校）・専門学校（1校）の実習生を受け入れ
- 2 日赤奉仕団・サンバの会・さくら会・どんぐりの会・傾聴ボランティアふい〜る
榛原高校（野球部）・その他 合計 15団体・98回・417人

VIII 環境整備

清掃関係、メンテナンス関係などを適宜実施し、安全で衛生的な施設環境を整えた。今年度、エアコン室外機等に多数の鳥の巣が作られていることが発見され、火災の原因ともなるため撤去と鳥が入り込めないような処置を行った。

IX 職員研修

- 法人研修 延 52人（新人、新年度、キャリアアップ研修 他）
施設内研修 延591人（感染症、事故、身体拘束、虐待、認知症、コンプライアンス 他）
外部研修 延124人（喀痰吸引、ユニットケア、介護技術、口腔ケア、身体拘束 他）

X その他

福祉関連の雑誌『ふれあいケア』に施設紹介された。取材を受けるにあたり、施設としての現状や課題に気付く事が出来た。全国誌で紹介された事で、職員のモチベーションアップにもつながった。

年度末は、新型コロナウイルスへの感染防止のための対応に追われることとなった。行政からの指導と、嘱託医や産業医からのアドバイスをもとに施設としての方針を話し合った。3月からの面会制限（原則禁止）の措置については、面会を楽しみにされているご利用者ご家族に対して大変心苦しくはあったものの、健康と命を最優先し実施した。職員の健康管理についても体温測定と行動チェックを行っている。衛生用品（マスク、消毒類、ゴム手袋 等）の確保については苦慮している。今回の事をきっかけとして、新たな感染症の予防対策やBCPの作成、平常時における必要物品のストック量などについて考える事ができた。

2019(令和元)年度事業報告

介護老人福祉施設
短期入所生活介護
地域密着型特別養護老人ホーム グレイス

私達は牧ノ原やまばと学園の理念に基づいて事業計画を立て、次のように実行しました。

I 活動方針並びに課題

- 1 活動方針…常にその方らしさに寄り添えているか話し合いながら支援を行いました。
 - (1) ユニット単位の家族会を初めて行いご利用者ご家族の思いを伺う良い機会となった。
 - (2) 職員自身が成長し適切な支援ができるよう、各種研修計画を立て実行しました。
 - (3) 民生委員さんと相談しあえる機会も持て、行事開催も含め地域と連携して行えました。
 - (4) 介護保険制度の改定等、関係法令の内容に沿ってサービスを提供しました。
- 2 課題
 - (1) 必要最低限の職員は確保できた。体調不良への配慮・職員育成面では不十分であった。
 - (2) 排泄ケアの見直しにより、作り出せた時間をユニットの余暇活動や関わりに使うことができた。また軽微ではあるがおむつ代の削減となっている。
 - (3) アンケートや組織評価等からご家族や職員より、施設運営等については「ほぼ満足」との評価は得られている。利用料や福利厚生等への満足度には課題も多い。
 - (4) 法人の運営方針・施設の課題等について、これまで以上に職員へ伝える機会を設けたが、職員全体が理解し、協力体制が整うまでに到達していない。

II 利用者と職員の状況

- 1 ご利用者について
 - (1) 定員 29 名、現員 29 名（男性 7 名、女性 22 名）、年度内入居者 11 名・退居者 10 名
 - (2) 年間平均稼働率 99.7%、入院者延べ 3 名（内 1 名：病院にて他界、2 名：グレイスへ）
平均介護度…3.9 最年長…103 歳 最年少…69 歳
 - (3) ショートステイ 定員 8 名：休止中
- 2 職員について
R2 年 3 月末時点：正規職員 16 名、パート 12 名（清掃員 2 名含む）、嘱託医 1 名
（施設長・ケアマネ・管理栄養士・事務員は他事業所・他部門を兼務）
年度内に介護員 1 名が異動 準職介護員 1 名が正規職員へ転換

III サービスとケアの内容

- 1 基本サービス
丁寧な情報収集を行い、入居前に近い暮らしが継続できるように努めました。入居前からの趣味活動や日常動作が続けられるようご本人と相談して環境を作り支援しました。
- 2 健康管理
診察・検診・予防接種等は予定に沿って実行。安全対策委員会を隔月で開催し、施設内研修を計画的に行った。急な状態変化による床ずれへの対応に弱い点が確認され、今後の課題となった。感染症のリスクが高い時期の面会制限等、感染拡大防止策を実施した。
- 3 通院・入退院
退院時は状態に合わせて環境を整え、通院ではご家族の協力をいただきながら、必要な受診を行った。安定が図れたケースは嘱託医診察に切り替え、受診の負担軽減を図りま

した。

- 4 教養娯楽：大きな行事以外に、ご利用者の「…したい」というつぶやきを大切に、実現可能なことはユニット単位でも叶えていこうとレクや調理などを計画実施しました。
- 5 事故・ヒヤリ発生への対応
報告書は適時に記入し回覧、必要時ご家族や行政へ報告。委員会において、報告事例の対策の結果を検証し、委員会が行う研修と共に職員会議等で情報の共有に努めました。

IV 防災並びに交通安全

- 1 毎月の防災訓練を毎月実施。3月には聖ルカホームとの連携避難訓練を実施。利用者個々のフェイスシートを更新。今年度、宿直不在となったが、悪天候時は事務職員が臨時に宿直に入り対応した。予定していた消防署の救命講習は感染症拡大防止のため中止。
- 2 交通安全では物損事故が数件発生している。定期的な点検整備を実施。

V 苦情や虐待その他への対応

- 1 苦情 1 件：近隣より給食委託業者職員の運転に苦情あり、速やかに業者に対応を依頼
- 2 事故 36 件：リスク委員会にて事故対策の効果を検証、
- 3 ヒヤリハット 121 件
- 4 虐待 0 件、
- 5 身体拘束 0 件：虐待・不適切ケアの研修、各会議で法人理念再確認の場を持ちました。

VI 家族や地域

- 1 施設イベントや初の試みのユニット家族会等を通して、ご家族・職員間の交流が図れた。
- 2 地域サロンの送迎・勉強会等は職員配置に余裕がなく行えていません。
- 3 運営推進会議（年6回）は予定通り実施。各方面からの貴重なご意見をいただいている。
- 4 外出は計画的に実施。施設ホールは地域老人会様に練習成果発表の場として提供した。

VII 実習生やボランティア

- 1 地域の坂部小学校5年生の体験実習の受け入れ
- 2 余暇活動の定期的なボランティアさんが継続して来訪、行事では定期のボランティアさんをはじめ地域の方々や元職員の協力をいただいて賑やかに開催する事ができました。

VIII 環境整備

- 1 エアコン・ウッドデッキ修繕、LED照明への交換、飛散防止フィルム工事、ポータブル発電機設置を行いご利用者が快適・安全に過ごせ、職員が働きやすくなるよう環境整備を行いました。
- 2 清潔を保ち、感染症流行時期は面会制限を行い、共有部分・手指の消毒等を徹底した。

IX 職員研修

法人研修	延 26人（新人・新年度研修・誕生月研修・防災・労務・部門別研修 他）
施設内研修	延 212人（ポジショニング・吸引・虐待防止・感染症・認知症・看取り・リスク 他）
外部研修	延 24人（災害対策・認知症介護基礎・ターミナル・転倒予防・身体拘束 他）

X その他

各会議は事前に報告事項等をまとめ各職員に配布したうえで、効率よく会議を進め、改善点等の周知に努めました。

I 活動方針並びに課題

1 活動方針について

法人が掲げる基本理念に沿って事業を実施した。

2 課題

- (1) 職員は外部研修に積極的に参加することができた。しかし、その研修で得た情報や知見を他の職員と共有する機会が少なかった。今後の課題である。
- (2) 資格取得への積極的な推進については、1名の職員が通信教育によって「社会福祉主事」の資格を取得した。また、1名の職員は労働安全衛生法による「第一種衛生管理者免許」を取得した。
- (3) 2010年頃より利用者が徐々に減少し続け、2018年10月以降は30名を割り込み、28名～29名と低迷していたが、2019年10月には1年ぶりに30名となり、年度末には32名となった。今後も関係機関の理解を得て利用者の確保に努めたい。
- (4) 利用者支援の充実には、職員間のチームワークが必須である。そのためには、個々の職員の力量を上げる必要がある。今後はケアプラン会議や職員会議等において職員同士の率直な意見交換を積み重ね、より深い人間理解に基づく支援を目指したい。

II 利用者と職員の状況（2019年3月31日現在）

1 利用者について（定員50名 短期入所5名）

- (1) 現員 32名（年間の平均利用者数 29.8名）
- (2) ショートステイ 生活管理短期宿泊利用者数 5名、自主短期宿泊利用者数 3名
- (3) 措置市町
牧之原市 17名 御前崎市 4名 吉田町 2名 藤枝市 1名 島田市 1名
焼津市 3名 川根本町 2名 掛川市 1名 南相馬市 1名（計 32名）
- (4) 平均年齢 男性 76.1歳 女性 84.6歳
- (5) 最高齢 男性 90歳 女性 97歳
- (6) 要支援認定 1名 要介護認定 9名

2 職員について

- (1) 正規職員：5名（昨年 6） 嘱託管理者：1名（昨年同） 準職：2名（昨年 1）
相談員パート：1名（昨年同） 日勤支援パート：4名（昨年同）
夜勤等支援パート：5名（昨年 6）

III サービスとケアの内容

1 健康管理

嘱託医による往診を毎月隔週（火曜日）に実施。定期健康診断は年2回実施。毎朝の朝礼前に全員の検温を行い、体調不良の早期発見と早期治療（受診）に努めた。また、日常的に手洗い、うがい、手指消毒を励行している。幸いにも利用者、職員ともにインフルエンザ及びノロウイルス罹患者はなかった。

通院は、内科を始め多くの診療科にわたっているが、特に精神科には1ヵ月に1度、10名の利用者が通院している。

2 教養・娯楽等

季節ごとの行事のほかに月に1度「聖書のお話し」の時間を設け、施設長が利用者と職員に向けて聖書に基づく話を行っている。例年通り笑いヨガ、習字クラブ等の文化教室を開催した。また、給食業者と連携し、夏まつりやクリスマス会等には工夫を凝らした行事食を提供してきた。例年通り多彩な行事を取り入れてきたが、同時に極力職員の負担を軽減するための工夫も行った。

IV 防災並びに交通安全

1 防災

- (1) 毎月1回、昼間及び夜間の避難訓練、消火訓練、資機材点検、操作訓練などを実施。
- (2) 2018年3月に放射線防護対策設備が完成した。そのため、職員がマニュアルに沿った行動ができるように行政、設置業者を交えての訓練を3回実施した。
- (3) 未整備であった「災害発生時における事業継続計画書（BCP）」や「風水害対策マニュアル」を整えた。

2 交通安全

法人本部主催の交通安全教室に職員が参加しその内容を職員会議で報告した。

V 苦情や虐待その他への対応など

- | | | |
|-----------|-------------|----------------|
| (1) 苦情 なし | (2) 事故 35件 | (3) ヒヤリハット 62件 |
| (4) 虐待 なし | (5) 身体拘束 なし | |

VI 家族や地域

7月19日に開催した夏祭りへの招待には利用者の家族やアトラクション出演者、関係団体の役員等を含めると100名を超える参加があり、施設の理解を深めていただく絶好の機会になっている。また、広報誌である「相寿園だより」を毎月発行し家族や地域の関係団体に発送している。

VII 実習生やボランティア

実習生はなかった。月2回の定例のシーツ交換の作業や行事などでの外出の際の利用者の見守りには、相寿園OB職員の活躍があった。また、カラオケやダンスの慰問を始め人権擁護委員会のメンバーや一般企業の社員の方々のボランティアにより花壇の整備が行われた。

VIII 環境整備

業者による雨漏りの補修を行った。また、調理場の機器（炊飯器、大型冷凍庫）の更新をした。事務関係ではパソコン及びサーバー機の更新を行った。

IX 職員研修

中部地区養護老人ホーム施設職員連絡会や県社協が主催する研修会に積極的に参加した。施設長は、全国老人福祉施設研究会議 愛媛会議（松山市開催）に参加した。

X その他

「身体拘束廃止に向けての指針」を作成し、「身体拘束廃止委員会」を発足させ、3ヶ月に1回「虐待防止委員会」と同時開催するようになった。

I 活動方針並びに課題

1 基本方針について

法人の掲げる基本理念「ともに生きる」/「私たちの願い」/「互いに助け合うコミュニティ創り」に沿って、事業を実施した。

2 課題（評価：期待以上達成◎ 達成○ やや未達成▲ 未達成か不実施×）

(1) 転倒予防については、支援員中心で行い、朝の体操参加奨励と転倒予防教室の継続開催、昼食前や座談会後の体操により運動の機会を作った。散歩の回数増加は、昨年より確保できたと感じている。水分補給奨励については、栄養士中心に昨年同様に、イオン飲料を玄関に置くなど、行えた。（自己評価は▲）

(2) 正規職1等級については、計画通り進められたが、その他は薄かった。提供のアンパランスもあり、次年度は非常勤職にも整備したい。（自己評価は×）

(3) 主任支援員の交代もあり緊急3者会議など不活発。後退した印象。（自己評価は×）

II 利用者と職員の状況（令和2年3月初め現在）

1 利用者について

(1) 定員50名、被措置者46名、高齢自立者、要介護認定15名、要支援認定4名、総合事業対象者2名、身体障害者手帳7名（聴覚障害者含む）、精神保健福祉手帳3名、療育手帳4名。平均入所者数45.7人（昨年47.4）、年平均利用率91.3%（昨年94.8）であった。

(2) ショートステイ 生活指導短期宿泊事業 定員2名、施設自主短期宿泊事業 定員10名、を実施した。生活指導の利用は年間延べ9名、自主短期3名利用であった。

2 職員について（3月初め現在）正規職員9名（施設長1、主任支援員〔副施設長〕1、生活相談員2、支援員3、事務員0、看護師1、栄養士1）非正規職員14名（支援員2、派遣支援員1名、看護師補助員1名、夜勤専門員3、早朝専門員2、宿直員3、事務職員2）年度末に事務職員1名が産前休暇に入り、パート事務員2名が入職した。求めている日勤支援員は、派遣職員により1名確保されたが、夜間専門員は3月現在未確保。次年度正規支援員1名が減員のため、日中が薄くなることが懸念される。

III サービスやケアの内容

1 基本サービス（健康状態の確認、食事、入浴、娯楽、夜間支援）を中心に自立的な暮らしを支援できたと考えているが、利用者の様子などの随時共有など課題を感じた。また3職種による小会議が多く見られず、残念だった。

2 健康診断等につき、嘱託医による定期回診が予定通り行われたほか、年2回7月と1月の定期検診も予定通り実施できた。予防接種についてはほぼ予定通り実施できた。定期歯科検診も昨年同様6月と12月に実施することができた。

3 通院・入院について

市内外の医療機関と連携しつつ、入・通院できた。新たに代わったはなみずき薬局とも、良好な関係を維持できた。

4 教養娯楽について

秋に実施の満足度調査により、行事について利用者は20（昨年19）%が満足。77（昨年83）%が普通以上の評価。今年も同様に外出を図りたいが、新型コロナウイルスにより不透明。内職は、現在5名（昨年4名）が行っている。今後拡大できたらいいと考えている。

IV 防災並びに交通安全

1 防災

- (1) 10月の台風19号により、初めて災害対策本部を設置、マニュアルに基づき実施してみた。必要な物品や日誌類の確認ができた。
- (2) 安否コール返信訓練につき、登録方法の変更で受発信ができなくなった職員が複数出た。現在対応中。

2 交通安全

車両に関する軽微な事故が、2件あった。利用者の、道路横断中の事故事例が1件あった。機会を見つけ、交通安全教育、案内を行いたい。

V 苦情や虐待その他への対応

- 1 苦情2件(昨年2) 要望他3件(昨年4)。苦情とも言い難いが、本人から強く訴えられることが増えた。静かに食事を食べたいという利用者と保証人からの訴えには、対応してきていただけない、残念な事案だった。
- 2 事故64件(89) 利用者関連以外の、車両事故なども含む件数。
- 3 ヒヤリ130件(123) ヒヤリは、日誌への簡単な報告で可としたもの。
- 4 虐待0件(0) 行政からの連絡、職員、利用者からの申告とも、無かった。
- 5 身体拘束1件(10) 昨年は服薬による情緒調整をそれとしたが、今年は医療の範囲とした。今年の1件は、飲酒して帰った後、他利用者とのトラブルのため、隔離対応したもの。

VI 家族や地域

1 家族等との交流

保証人会を10月26日土曜日に実施し、保証人や家族20組33名(昨年26、36)の参加。行政担当課1名参加。その後は、利用者との茶話会とした。

2 地域社会との交流

計画通り実施できた。市立大津小学校4年生との交流を今年も4回実施できた。大津地区文化祭、おおるり文化祭へもクラブ活動の先生の計らいで入所者の絵画など出品した。

VII 実習生やボランティア

職業体験実習生は、今年も5月14日～16日に市内2中学校から合計3名(昨年4)を受入れた。島田市年金協会を始め、慰問ボランティアは、多数訪問下さり、カラオケや踊りの披露など提供いただいた。県社協経由の大学生の介護等体験受入れを、今年も1名(昨年1)実施。

VIII 環境整備

故障の増え始めたエアコンにつき、市に利用者各居室全てで、交換いただいた。市の予算で、浄化槽隔壁破損の修理が年度末に実行できた。ただ、懸案であった災害用発電機の修理が、部品の供給不可で出来なかったのは、誠に残念だった。

IX 職員研修 以下参加回数(人数ではない)

法人全体系	2	法人理念系	6	苦情虐待拘束系	1	法律事務組織系	2
高齢部門系	2	中公養護系	6	障害系	1	栄養医療系	7

キャリアパス対応の研修を、1等級職員とリーダー職員に実施できた。感染症研修に、外部に行けなかった。

X その他

エコナビの設置によるピーク時の電気需要の適正化に、効果が出つつあり、今後少しずつ料金の低下が期待できる。次年度は、是非通院の便宜を図るため、リフト付き軽自動車の導入を図りたい。

2019(令和元)年度事業報告

通所介護
介護予防・日常生活支援総合事業
デイサービスセンター真菜

I 活動方針並びに課題

1 活動方針について

法人の基本理念に基づき、住み慣れた地域で可能な限り自立した生活を送ることができるよう、本人及び家族の思いに寄り添い、「褒める」「認める」「感謝する」をモットーに職員同士のチーム力で利用者の立場に立った支援を行いました。

2 課題

- (1) ご利用者さんの「やりたい!」を実現する取り組みを8回、総合事業の社会参加となる取り組みを3回行い、意欲向上につながりました。
- (2) 通所介護の稼働率を前年比の3%upを目標に掲げ、活動の成果等の情報を発信するツールとして「真菜通信」を作成し、居宅事業所への訪問回数を増やしました。結果、通所介護の稼働率前年比7.7%upと目標を上回ることができました。
- (3) 職員の振る舞いや言葉づかいは満足度調査でも40件中37件が満足、3件がやや満足の結果でした。感謝を伝え更にチームワーク良く働けるようにしていきたい。

II ご利用者と職員の状況

1 ご利用者について

年間の新規利用が要介護者14件、総合事業15件、計29件。入所・廃止の方が年間で17件ありました。全体(要介護・総合・要支援・私費)の一日平均利用者は27.1人で前年度平均より3.7人増えました。年間稼働率は77.5%で前年度より10.5%増えました。

延数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	532	595	556	604	610	601	621	642	619	611	594	587	7172
総合	76	73	61	70	67	69	96	82	77	86	94	96	947
私費	11	9	8	9	13	21	22	26	18	13	15	17	182
平均	23.8	25.1	25.0	27.3	25.6	27.6	28.4	28.8	29.8	29.6	28.1	26.9	27.1

2 職員について

正職5名、事務兼務1名、パート(看護)4名、(介護)9名、(介兼)2名、(運転)5名、計26名でスタートしましたが、年度途中で正職1名、運転手1名が体調不良で退職、年度末に2時間パート1名退職。年度途中で準職1名就職、7時間パート1名就職しました。

III サービスとケアの内容

1 プランに沿ったサービスの実施

具体的な目標設定と支援内容を変更したことで個別サービスの提供がしやすくなりました。

2 健康管理について

バイタル測定や、日々の様子観察を行い早期に異変を発見し適切な対応ができました。体調の急変により救急車を要請することが2件ありました。

3 教養娯楽について

中庭やホール内歩行を毎日行い、歩行カードにご自分で記入していただきました。午前、午後と体操の時間を増やし筋力の維持・向上を図り、趣味活動はご利用者さんの「やりたい

い」を尊重し、カフェや切り干し作り、外食や日限地蔵尊への初詣等を行いました。

IV 防災並びに交通安全

1 防災訓練

消防計画に基づいた防災訓練を2月に、法人全体の防災訓練を3月に行いました。避難訓練は毎月実施しました。BCPは簡単な見直しを行い、初動対応の検討会は行えませんでした。

2 交通安全の意識付け

毎日・毎週の送迎前点検、定期点検も忘れずに実施しました。交通マナーの厳守と安全運転に努めましたが、違反は0件、軽度な車両の接触事故8件ありました。

V 苦情や虐待その他への対応

1. 苦情 3 件、解決済みです。2. 事故 50 件、転倒事故で大腿骨骨折による入院と、送迎時の自宅用リフト転落事故で指を脱臼した事故の 2 件については保険対応をしました。それ以外に 1 件、転倒し上腕にヒビがはいる事故があり、市への報告は 3 件でした。3. ヒヤリハット 53 件、4. 虐待 0 件、言葉づかいは特に気を付けました。5. 身体拘束 0 件。

VI 家族や地域

- 2月に介護者の集いを開催し、8名のご家族が参加されました。牧之原市の介護者のつどいも7月と3月に行い、7月は12名の参加者がありましたが、3月は新型コロナウイルス感染症の関係でキャンセルが8件あり、参加者は8名でした。3月にご利用者さんとご家族に満足度調査を行い、結果は回答者40名で、満足が言葉遣い→40名、対応→40名、希望に沿ったサービス→40名、食事→35名、入浴→34名、レク、行事→35名でした。
- 祭典やオリーブ園祭りの開催。勝間田小学校の5年生や榛原高校野球部との交流ができました。

VII 実習生やボランティア

麻雀・喫茶・ハンドマッサージ・音楽療法・絵手紙・将棋のボランティアは年間とおして定期的に来ていただきました。麻雀のボランティアについては月2回、送迎を行い居場所づくりの取り組みとして行いました。

VIII 環境整備

建物内外の消毒を毎月行いました。建物の修繕については、ご利用者さんのトイレの改修を行い、床の張り替えと扉をつけました。移転については検討中。

IX 職員研修

キャリアアップ要件に基づき、外部研修や法人内研修に積極的に参加しました。参加後は報告書の回覧と職員会で報告し情報を共有しました。毎月の職員会でミニ研修を行い、職員同士のコミュニケーションとスキルアップを図れるよう工夫しました。

X その他

- 有給消化率73.6%（前年度35%）誕生日や記念日等、計画的に有給取得に努めました。朝礼時の腰痛予防体操も継続して行いました。
- 記録のPC入力の移行に取り組みましたが、看護記録の移行ができませんでした。

2019(令和元)年度事業報告

地域密着認知症対応型通所介護事業所
デイサービスセンターすずらん

私達は牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような事業を行いました。

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

- (1) ご家族の心身の介護負担を軽減し、認知症の方々が可能な限り住み慣れた自宅で日常生活を営むことが出来るように、ご利用者の声に耳を傾け支援しました。
- (2) ご利用者が持つ能力が維持されるよう生活機能の維持・向上を目指して家事活動等の支援を行いましたが、職員の配置・育成不足を解消できなかったことで、体操等のプログラムは評価を行う段階にまで達することはできませんでした。
- (3) ご利用者に対して笑顔で接し、職員同士が互いに笑顔で声を掛け合うことで、ご利用者が安心して過ごされていることを実感できました。
- (4) 介護保険制度の改定等、関係法令の内容に沿ってサービスを提供しました。

2 課題

- (1) 日々の記録・報告書等では5W2Hが徹底されておらず、認知症介護に対する専門性についてもスキルアップの機会が十分とは言えなかった。
- (2) 昨年度一定の評価をいただけた運動プログラムであるが計画的な実施にはいたらなかった。計画を実行に移す人材を確保することが大きな課題として残った。
- (3) 事業所からのご利用者に必要な情報発信を毎月実施。定員 12 名でご利用者お 1 人の状況変化が大きく影響する中、稼働率は70%台でキープとなった。

II 利用者と職員の状況

1 利用者について

(1) 定員 12 名 新規利用者 5 名 利用廃止 9 名 年間平均稼働率 77.1%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	250	259	251	263	237	235	235	238	213	219	221	239
稼働日	26	27	25	27	27	25	26	26	24	24	25	27
均(人)	10	9.9	10.4	10.1	9.1	9.4	8.7	9.3	9	9.2	9	9
実人数	19	21	21	23	22	22	21	21	20	19	18	18

2 職員について (3月31日現在)

施設長 1 名 (他 2 事業所兼務)、管理者 1 名 (介護員・相談員兼務)、 相談員 1 名 (介護員兼務)、機能訓練指導員 1 名、パート介護員 5 名、パート運転手 2 名

III サービスとケアの内容

- 1 丁寧なアセスメントを行い、アセスメントシートを工夫することでご利用者のニーズが見えてくるものを作成することができた。
- 2 介護計画書の目標は具体的に設定したが、職員が常に目標を意識する余裕を持てなかった。業務の見直しと計画書の内容再検討が必要と感じた。
- 3 家事活動を中心に自発的な活動をすることで、自信が持てた方と能力の衰えを感じる結果になった方もあり、狭い空間の中でも十分な配慮が必要であったと反省した。

- 4 体操や身体を使ったレク等のプログラムの提供で、下肢筋力の維持・認知症の進行予防を図りましたが、ご家族からはもっと増やしてほしいとの要望が聞かれました。
- 5 活動内容のパターン化によって、認知症の進行具合が把握でき、個々への関わり方を検討・実施に移していくことができた。
- 6 その日の状態観察・体調の変化・バイタルを職員が共有することで、入所施設看護師・ケアマネ・ご家族と適切に連携することができました。

IV 防災並びに交通安全

- 1 法人安否コール訓練と恵の丘防災訓練時に日中想定で避難訓練を実施。3月末聖ルカホームとの連携避難訓練を実施し、避難経路の確認等を行った。
- 2 法人交通安全講習に参加。公用車両の車椅子装着や緊急時のリモコンが使えない場合の装着方法の再確認を行った。接触等の物損事故が数件見られた。

V 苦情や対応その他への対応

- 1 苦情 0 件。法人苦情解決委員会に参加し他施設での事例を参考に情報共有を行いました。
- 2 事故 6 件：FAX 送信ミスが発生。リスク委員会にて事故対策の評価を実施
- 3 ヒヤリハット 50 件
- 4 虐待 0 件
- 5 身体拘束 0 件：ミーティングにて「虐待のとば口」の研修実施

VI 家族や地域

- 1 連絡ノートの活用・送迎時のコミュニケーションや体調変化を早めに電話でお知らせしていくことでご家族・ケアマネからも情報をいただけた。
- 2 「介護者の集い」はご家族都合により開催できなかったため、アンケートを実施。お困り事やデイへの要望などのご意見を伺い、ご家族に集計結果を報告させていただいた。
- 3 運営推進会議年2回開催。活動報告を行い、地域の皆様からのご意見を頂戴しました。
- 4 年間計画に従って外出・地域の行事や催し物に参加し、住民の皆さんと交流しました。

VII 実習生やボランティア

- 1 清流館高校実習生2名受け入れ。坂部小学校4年生の体験実習受け入れ。
- 2 施設行事・外出の付き添いや慰問で団体・個人ボランティアのご協力を頂きました。

VIII 環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

- 1 照明の一部をLEDに交換、空気清浄機・洗濯機・ソファ等の買い替えを行った。
- 2 ホール等を活動しやすく整備を心掛けたが、ご利用者が歩行器に躓く事故が見られた。
- 3 施設内や公用車は換気に留意し、手すり等の洗浄・消毒を実施しました。

IX 職員研修

法人研修	延べ5名	(誕生月研修・ハラスメントをめぐる現場の対処法 他)
内部研修	延べ56名	(ポジショニング・笑顔・コミュニケーションギャップ・接遇 他)
外部研修	延べ7名	(認知症の方の為のレク・認知症介護基礎・体緩めて体幹トレ・他)

X その他

- 1 相談員のポジションが安定せず、結果、他職員の負担感が増すこととなった。
- 2 会議では各々の担当が役割を持って説明や発表ができていた。

2019(令和元)年度事業報告

訪問介護事業
介護予防・日常生活支援総合事業
ライフサポートさくらん

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づいて事業計画を立て、次のように実行しました。

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

高齢になられても、また、誰かの援助が必要になっても住み慣れた自宅（地域）での生活が続けられるよう、適切なサービス提供と丁寧な対応を心がけ地域で選ばれる事業所として活動できた。

2 課題

- (1) 職員一人ひとりに合わせた研修計画を作成し研修に参加する事が出来た。
- (2) 研修に参加し個々の成長は促せたものの、他の職員と共有する機会が少なく改善が必要である。ご利用者やご家族に対しては、アンケートを実施し事業所の評価をしていただいた。今後は、ケアマネジャーからも事業所評価をいただきより良いケアや要望の聞き取りが出来るようにしたい。
- (3) 提供サービスの時間帯が集中する場合や待機時間帯などのシフト管理が大変難しい。面談の機会をつくることで、職員と直接話ができる時間ができた。
- (4) 前年度と比較し、利用者数及び提供件数が減少している。新規利用者や困難ケースにも出来るだけの対応をし、利用者、家族、ケアマネから信頼を得られるようさらなる努力が必要と感じている。

II 利用者と職員の状況

1 利用者について

保険者別年間延利用者数

	牧之原市	島田市	吉田町	合計
介護	300	13	61	374
総合	223	0	45	268
自費	94	0	5	99
合計	617	13	111	741

サービス区分別年間請求件数

介護			総合事業	
身体	身体生活	生活	訪問型	緩和
4,323	1,551	220	1,477	339

2 職員について (2020年3月31日現在)

施設長	1名 (他事業所兼務)
訪問介護員	14名 (正職3名・パート2名・登録パート9名) ※ 正職2名、パート1名はサービス提供責任者を兼務

Ⅲ サービスとケアの内容

- 1 ケアマネジャーのケアプランを基本に、サービス提供責任者が作成する介護プランに沿ったサービス提供を行った。
- 2 訪問時の様子や要望などは、職員間で必ず情報共有する事と、必要に応じケアマネジャーやご家族に報告を行った。職員は、サービス提供指針によるサービス提供を心がけた。

Ⅳ 防災並びに交通安全

- 1 外部講師を招き、災害時対応の研修会を開催した。災害時の連絡手段として、安否コールシステムが使えるよう緊急伝達訓練を実施した。
- 2 移動時には安全運転を心がけ、余裕をもった運転を行うよう周知した。

Ⅴ 苦情や虐待その他への対応

訪問介護は、一人対応が多いためヒヤリハットの気付きが大切である事を伝え事故や苦情を未然に防ぐため報告の大切さを啓発した。報告しやすい環境（人間関係）を心がけた。

苦情	4件	連絡不足による苦情、ケアへの苦情、ケア忘れ 等
事故	3件	転倒、転落、服薬関係
ヒヤリハット	4件	転倒回避、施錠忘れ、爪切りミス、服薬関係
虐待	0件	
身体拘束	0件	

Ⅵ 家族や地域

10月に、ヘルパーの訪問時の対応やサービスについて「さふらん満足度調査」を実施。どの項目についても「満足」「ほぼ満足」が8割以上の評価となっている。コメント欄にも労いの言葉をいただいたが、要望については真摯に受けとめ、今後のサービスの向上に努力していきたい。

Ⅶ 実習生やボランティア

高等学校からの実習生の受け入れを行った。訪問先に了解を得た上で同行訪問を実施。個人情報の取り扱いに注意を促した。

Ⅷ 環境整備

社用車の整備点検を実施。

事務所内など、書類等の整理を行い仕事の効率化を図った。

Ⅸ 職員研修

法人研修 延 8人（新年度、誕生月研修 他）

施設内研修 延 101人（緩和ケア、災害時対応、困難事例の対応 他）

外部研修 延 29人（認知症、緩和ケアを取り入れた介護、誤嚥性肺炎の予防 他）

X その他

年度末は、新型コロナウイルスへの感染防止のための対応に追われることとなった。職員は、勤務前の健康チェックを実施し、ご利用者にも体温測定等を行っている。衛生用品（マスク、消毒類、ゴム手袋 等）の確保については苦慮している。訪問介護サービスは、感染リスクがあるご利用者に対しても必要時にはケアに入らなくてはならないため、感染予防の為の個別指導と必要物品の用意を行った。

2019(令和元)年度事業報告

居宅介護支援事業所
シャローム

私達は牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような事業を実施しました。

I 活動方針並びに課題

1 活動方針について

- (1) ご利用者が住み慣れたご自宅での自立した生活を1日でも長く継続していけるよう、法人の理念・サービス提供指針をもとに仕事をすすめました。
- (2) 法律・法令を遵守したうえで、その内容に沿った運営、説明を行いました。

2 課題

- (1) 居宅地域貢献として、第1土曜日を介護全般の相談日と定めチラシの配布を行った。
- (2) 経営面から人員体制は継続とし、住民から選ばれ稼働率安定を図ることとした。

II 利用者と職員の状況

1 利用者について

- (1) 計画作成数(延べ) 要介護 804件 要支援 122件
- (2) 新規受託数 21件 契約終了件数 27件(死亡12件、入所12件、変更3件)
- (3) 平均稼働率 91.8%

2 職員について(3/31現在)

職種別：所長1名(グレイス副施設長・すずらん施設長兼務)
介護支援専門員2名(主任介護支援専門員2名)

III サービスとケアの内容

- 1 複数ある居宅介護支援事業所や各種介護サービス事業所は自由に選定できることや、サービスをプランに位置付けた理由を明確にし、公正中立なケアマネジメントとなるよう努めました。
- 2 ご利用者・ご家族と良いコミュニケーションが図れるよう訪問や電話対応では傾聴することに努め、情報収集に努めました。
- 3 榛原地区・相良地区の民生委員との交流の場などを通して地域のケアマネと情報交換し、インフォーマルな支援を計画に盛り込むことに努めました。
- 4 重度化を防止し、自立を支援するようPTはじめ医療・介護で連携を図り安全な在宅環境を整えるよう支援しました。
- 5 包括支援センターや総合病院等からの末期がん患者など困難ケースの受け入れを積極的に行いました。
- 6 ご家族の状況に合わせて利用サービスの変更や制度の説明を行い、納得してサービスを利用していただけると努めました。

IV 防災並びに交通安全

- 1 事業所の防災マニュアル・フェイスシートの整備を継続して行いました。グレイス防災訓練参加
- 2 体調管理をし、訪問時は余裕をもって出発し、安全運転に心がけました。施設イベント協力時に物損事故が見られた。

V 苦情や虐待その他への対応

- 1 苦情 0 件：苦情解決委員会での事例について共有し再発防止について話し合いました。
他事業所への苦情についても書類にまとめることを継続している。
- 2 事故 2 件：事故については利用者様にほかの方の書類を渡す事故が続きました。居宅会議にて情報共有を行ったが、対策の評価が行えていなかった。
- 3 ヒヤリハット 0 件
- 4 虐待 0 件：虐待が心配されたケースは、提供事業所と連携し、訴えの度に介護者の話を傾聴し、サービス調整を行うことで、虐待事例にはなりませんでした。
- 5 身体拘束 0 件

VI 家族や地域

- 1 家族との関係
ご家族・ご本人の立場や心情に寄り添って話を伺うことに努め、サービス提供事業者や地域の民生委員との連携に努めました。
- 2 担当ご利用者以外の方々の相談に応じていけるよう地域向け相談日を設けました。

VII 実習生やボランティア

- 1 今年度、実習生依頼はありませんでした。
- 2 ご利用者の生活を支援して下さっているボランティアさん・ご友人等との関係を維持し、サービス計画に繁栄させました。恵の丘の行事ボランティア対応の協力を行いました。

VIII 環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

- 1 公用車・施設内は清潔に保ち、感染症流行時期は共有部分や手指の消毒を徹底した。
- 2 PCの新規リース契約・介護保険ソフトの新規更新を行った。

IX 職員研修

1 参加研修

法人内研修	新年度研修 誕生月研修 管理者研修（久田先生） 聖隷信徒交流会研修（共生社会への歩み）
高齢者内研修	恵の丘内部研修（10回） 高齢者部門リーダー研修 ワークライフバランス
ケアマネ連絡会	医療介護連携推進について 事例検討会 自分の力で生きる老後、老後にかかるお金について
主任ケアマネ連絡会	事例検討会 メンタルヘルス研修 課題整理総括表について
外部研修	令和元年第1回主任介護支援専門員更新研修 基本情報アセスメント・課題整理総括表の作成と活用法 お茶の子みらいく（認知症高齢者の理解と対応・嚥下困難・誤嚥性肺炎予防）・民生委員児童委員とケアマネジャーとの意見交換会等（2回）・総合病院相談員とケアマネの意見交換会

様々な研修参加で専門知識の見直しや新たな情報を学べたことでアセスメントの視点を深めることができた。

X その他

法人内有資格者のケアマネ兼務は現状の人材に余裕がなく行えていない。

2019(令和元)年度事業報告

牧之原市地域包括支援センターオーリーブ

I 活動方針並びに課題

- 1 自立支援、介護予防・重度化防止を推進する介護予防ケアマネジメントに取り組みました。
- 2 地域包括支援ネットワークの構築及び社会資源の開発と活用にむけて取り組みました。
- 3 権利擁護に関する支援を行いました。成年後見の講演はコロナの関係で中止しました。
今年度は半数以上の職員が入れ替わりましたが、職員のまとまりがあり業務は大変でしたが全員で支えることができた。10月から主任ケアマネ1名が産休で3職種が減り相談が手一杯でした。新任職員も相談業務に遂行できるように相談の数を重ね現在も習得中です。

II 利用者と職員の状況

1 利用者(対象者)・・・牧之原市榛原地区の予防給付と総合事業実績件数

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
給付直営	80	69	70	73	76	69	79	73	84	79	80	86	918
委託	61	62	60	63	59	57	58	60	62	65	68	64	739
合計	141	131	130	136	135	126	137	133	146	144	148	150	1657
総合直営	96	93	78	87	91	89	91	91	84	80	78	81	1039
委託	16	13	15	15	14	12	15	16	17	17	18	14	182
合計	112	106	93	102	105	101	106	107	101	97	96	95	1221
実態把握	21	25	24	34	33	20	27	30	17	25	33	38	327

2 職員

所長・社会福祉士(みなし)	非常勤専任 1名	介護支援専門員	専任 1名
保健師(市～出向)	専任 1名	同上(9月・10月～常勤)	非常勤→専任 1名
主任介護支援専門員	専任 1名	実態把握 予防マネジメント	専任 2名
同上(10～産休)	専任 1名	事務員	常勤兼任 1名

III サービスとケアの内容

- 1 牧之原市の榛原地区の65歳以上の高齢者に対し優先順位を付けて実態把握を実施したが、予定数420件には至らず327件に終わった。3職種が虐待など長引くケースに取り組み、プランナーも新人で自分の役割を果たすのが精いっぱい実態把握がのびなかった。
- 2 総合相談で相談に上るケースに対し、高齢者の権利擁護が守られるように方針を立て取り組んだ。
 - (1) 認知症初期集中支援チームの会議に参加した。年度末に1件稼働している。
 - (2) 虐待事案が2件。施設入所で終結している。1件は成年後見に結びつけた。予防として現在も対応しているケースは2件。2月に成年後見の講演会はコロナで中止になる。個別支援協議会に参加し成年後見に結びつけたケースは4件。
- 3 高齢者が自宅での生活が続けられるよう出かける場所の提案、生活上のアドバイスをしました。
 - (1) 市主導でケアプラン会議を実施、生活上のアドバイスを専門職からうけた。4件
 - (2) ケアプラン点検に主任介護支援専門員が参加し介護支援専門員に対し、課題整理総括表を使ってケアマネ支援を実施した。3件

IV 防災並びに交通安全

- 1 防災訓練：牧之原市総合防災訓練は職員緊急連絡網による情報伝達、消火訓練、避難訓

練に参加した。

法人合同防災訓練：安否コールを使って携帯で一斉に訓練を実施した。

2 交通安全の意識付け：法定速度厳守、雨天の運転注意、交通安全教室は参加者なし。

V 苦情や虐待その他への対応

1 苦情2件。苦情受付窓口を設置し適切に対処した。内容を職員で共有した。

2 事故3件。3 ヒヤリ0件。その都度職員で共有した。4 虐待0件。5 身体拘束0件。

VI 家族や地域

1 訪問時“ええあんばい”他事業のお知らせ、オリーブのリーフレットを配布した。

2 介護者教室はDS真菜へ移行し、担当職員への支援を行った。

家族元気回復事業については引き続き業者やさがら包括と連携を取って進めた。

3 民協は事例報告とケアマネとの交流会を開催した。サテライト事業に関してはさんいく包括が立ち上がることもあり、さがら包括と合同で薬局との連携の交流会を開催した。

4 保健、医療、福祉の専門職、民生委員、ボランティア、社協など地域福祉を支える様々な関係者との連携を図り、ネットワークづくりを行った。

5 地域のサロンやシニアクラブに出向き、包括の周知と介護予防や権利擁護の啓発を行った。介護予防 20件 啓発 30件

6 生きがいガーデンこにたの地域への居場所づくりの事業に協力した。

VII 実習生やボランティア

1 市と協議の上、個人情報厳守した誓約書を取り交わした後、実習生を受け入れた。

聖隷クリストファー学生(看護師)5名 県立短大(社会福祉士)2名

VIII 環境整備

1 市民にとって利便性のある保健福祉センターさざんかの事務所で、行政の関連部署と円滑な連携と、スムーズな相談対応ができた。また、今年度から生活支援センターとも同じ場所になり高齢・障がいの家族に対してケースワークなど連携がとれた。

2 守秘義務には十分配慮し、個室の手配なども行った。

IX 職員研修 (2月からコロナの影響で6研修が中止した。)

外部	人	外部	人	法人	人	法人	人
包括(国)基礎(2回)	3	ケアマネ各種	5	新人オリエンテーション			2
〃(県)研修	2	認知症関係	4	新年度研修	3	キャリアアップ	2
〃(県)マネジメント	10	包括評価	2	新人研修	2	管理者研修	3
権利擁護関係	3	看・看連携	6	人事評価	1	ワークバランス	2
多職種連携関係	11	医療介護連携	2	誕生月研修	5		
外部研修合計	34回・参加者延べ48人			法人		8回・参加者延べ20人	

研修後ミーティングやカンファレンスを利用して報告した。

X その他

(1)健康診断・インフルエンザの予防接種を行った。

(2)訪問時はマスク・手指消毒液を携帯するなど事故予防に勤めた。コロナの関係で事務所管内の消毒の徹底も行った。

(3)ストレスチェック等メンタル面でのケアを行った。

2 職員の人材育成と配置について、市、法人と協議していく。

(1)市が行う新任者研修に4名参加。包括の勉強会開催し課題整理総括表の勉強を行った。来年度の職員配置は市に保健師の出自依頼をした。3職種の配置を法人に依頼した。

2019（令和元）年度事業報告

介護予防拠点施設
コミュニティセンターぶどうの木

私たちは、牧ノ原やまばと学園の理念に基づき、次のような計画を立て事業を行いました。

I 活動方針と課題

1 方針

- (1)利用者一人ひとりとの関係性が深まり、個別の目標を目指して励むことが出来ました。
- (2)新たな地域へ介入することで、介護予防に対する意識が高まり、理解が進みました。

2 課題

- (1)生活コーディネーターと包括支援センターオリーブ、牧之原市長寿介護課と定期的に居場所の話し合いを始めることができました。

II ご利用者と職員の状況

1 ご利用者

事業種	短時間デイサービス事業	一般介護予防事業			
	概ね2時間以上通所 5単位	通所フォロー事業 (ほっとサロン)	居場所 (中地区) 場所提供	介護予防普及啓発事業 (地域に向く)	
曜日	火・木 (AM) 金 (AM・PM) 水 (PM)	月曜日 AM	第3木曜日 PM	ポイント	居場所 木曜日 福祉センター
開所日数	247日	42日	12日	21日	50日
延べ人数	1356名	243名	43名	309名	173名
定員	各15名	各15名	不特定数	不特定数	

2 職員：変更なし

施設長・管理者（嘱託）	1名	支援員（常勤職員）	1名
支援員（パート兼務）	2名	支援員（パート職員）	2名

III サービスとケアの内容

1 通所型サービス事業：短時間デイサービス「ぶどうの木」

外出計画通り「焼津さかなセンター」に出かけチケットを買い食事、買い物をしました。有効期限前カンファレンスにおいて、他事業所への移行が進み利用人数が減少しました。その後の新規利用者は増えず、年間の稼働率は36,6%にとどまりました。

2 一般介護予防事業：①通所型フォロー事業「ほっとサロン」

実施場所を「ぶどうの木」から「老人福祉センター」に移しておこないました。活動の理解や移動、車の乗降に手を貸すことも多く、自主的活動へと進めることが困難でした。

3 一般介護予防事業：②地域での高齢者の居場所・出番づくり支援事業

ぶどうの木で実施した「さーくるふらっと」は送迎付きでしたが、自力で出かけ自主的参加に切り替えて地域で行なえるよう「行って見てGO」と名前を改め、老人福祉センターで実施しました。

- 4 一般介護予防事業：③介護予防のポイント啓発事業
新たな地区（サロン、老人会）で開催することができ、介護予防の意識が高まりました。

IV 防災並びに交通安全

1 災害

職員、ご利用者は自分の住まいにおける被害想定、浸水区域をハザードマップで確認し、風水害について防災の意識を高め、必要な避難経路、場所や用具について話し合いました。職員は法人の安否コール通信訓練に参加し、年間返信率 85%でした。

2 交通安全

職員・ご利用者は、毎月 1 回開催される「婦人交通指導員による交通安全講話」から情報提供を受け、交通安全の意識を高めることができました。

V 苦情や虐待その他への対応

ミーティング時を利用しリスクを未然に防げるよう情報共有や対策を検討しました。

- 1 苦情 0 件 2 事故 3 件（内 1 件は手がドアに挟まれ裂傷） 3 ヒヤリ 1 件
4 虐待 0 件 5 身体拘束 0 件

VI 家族や地域

1 家族に対して

月 1 回「ぶどうの木だより」を発行し、事業の内容を理解共有しました。また、アンケートを実施してご家族の意向の聞き取りをおこない、適切な支援になるよう努めました。

2 地域に対して

・「レタスクラブ」障碍施設との交流はレタス利用者の主体性に任せたが進みませんでした。また、児童との春休み交流もコロナウイルス感染防止のため実施できませんでした。
・ぶどうの木の地区である中地区の防災訓練に参加しました。

VII 実習生やボランティア

広く呼びかけをせず特定のボランティアへ声掛けをしました。

音楽療法士：延べ 23 人	あざみ会：延べ 7 人	さくら会：延べ 2 人
---------------	-------------	-------------

VIII 環境整備

- 1 牧之原市が防犯カメラを玄関前に設置しました。
2 近隣の方が草刈りを自発的に行って下さいました。

IX 職員研修

- 1 質の高い支援を行うため全員が参加しました。

内部研修：9 回（延べ 11 人）	外部研修：12 回（延べ 21 人）
-------------------	--------------------

- 2 研修報告をスタッフミーティングの時にを行いました。

X その他

- 1 プランの期限があり変更や適切なサービスへの移行について合意し、包括支援センターオーリーブ及び牧之原市長寿介護課と合同カンファレンスを実施して連携を図りました。
2 新型コロナウイルスの感染を予防するため、利用者、職員は毎日体温、体調チェックを行った。また、事業所内においては 3 密を防ぐ対策と従前の感染予防マニュアルに従って実施しました。

I 活動方針並びに課題

1 活動方針

障がい者および高齢者が、地域で自立した生活を送るために提供されるべきサービス、すなわち、「当事者を主体としたサービス提供の理念」と、「障がい者・高齢者に対応できる介護技術」を習得することを目的とした。また、この事業を通して地域の介護・福祉人材の確保を目的としているか今回での採用はなかった。(将来に繋がる人材はあったと感じている。)

2 課題

- (1) 定員 20 名に対して、受講生は 12 名集まった。ただし、当法人職員が 8 名で外部からの受講生が少なかった。
- (2) 今回の受講生の中から 1 名就職希望者がいた。
- (3) 講師の確保が難しくなっている。施設長クラスの職員に講義をお願いしているが、本業に支障をきたさないようにしたい。
- (4) 事務業務を職員で行った。毎週土曜日出勤になるため、平日公休の日数が増加。

II 受講者と職員の状況

- 1 受講生 12 名。全員合格。
- 2 講師は、法人内職員 20 名。

III サービスの内容

【日程】毎週土曜日。8月31日(土)から12月14日(土)までの全15回。

(平均の授業時間)午前9時から午後4時半。

【会場】グレイス May ホール・聖ルカホーム会議室で開催。

【テキスト】長寿社会開発センターのテキストを使用。

【修了試験】模擬テストを実施したうえで試験を行い全員合格。

X その他

本来の目的である「人材確保」ができていない状態である。

2019(令和元)年度事業報告

付属明細書

該当なし